



ユーザーガイド



USBオーディオインターフェイス

URX44V
URX44 URX22

目次

はじめに	8
本製品について	8
マニュアルの構成	9
付属品	10
本ガイドの表記方法について	11
お知らせ	12
ソフトウェアについて	13
各部の名称と機能	14
トップパネル	14
リアパネル	16
フロントパネル	19
サイドパネル(URX44V)	20
準備する	21
TOOLS for MGX/URXをインストールする	21
電源を接続する(URX44V)	22
電源を接続する(URX44、URX22)	24
電源をオン/オフする	25
コンピューターと接続する	26
ファームウェアをアップデートする	27
接続する	28
アナログ入出力と接続する	28
コンピューターと接続する(Windows)	30
コンピューターと接続する(Mac)	31
モバイル端末と接続する	33
映像機器と接続する(URX44V)	35

コンピューターへの映像の入力設定(URX44V)	36
画面概要と基本操作	37
画面の概要	37
画面の基本操作	38
Operation Mode(操作モード)について	42
操作モードの設定	42
Simpleモード	44
Standardモード	45
HOME画面(Overview)	46
画面構成	46
ツールバー	47
メインエリア	48
チャンネル表示	48
チャンネルエリア	51
サイドメニュー	53
SETUP画面	54
トップメニュー	54
GENERALメニュー	54
Versionメニュー	55
Licenseメニュー	56
Languageメニュー	57
Brightnessメニュー	58
User Defined Knobsメニュー	59
Sampling Frequencyメニュー	60
Output Patchメニュー	61
Peripheralメニュー	63
Power Managementメニュー	65
Date/Time メニュー(URX44V、URX44)	66
Software Integrationメニュー(V1.2以降)	67

MONITOR画面	68
トップメニュー	68
Monitorメニュー	69
Phonesメニュー	71
Oscillatorメニュー	72
SCENE画面	74
トップメニュー	74
Scene Listメニュー	75
microSD画面(URX44V、URX44)	78
トップメニュー	78
USB Storage Mode ボタン(V1.2以降)	80
RECORDERメニュー	81
TOOLSメニュー	87
チャンネルビュー	90
画面構成	90
ツールバー	91
チャンネル設定画面	92
メインエリア	94
チャンネル専用画面	100
チャンネル設定画面	100
INPUT画面	101
GATE画面	104
COMP画面	105
EQ画面	107

SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面	109
メイン画面	109
COMP画面	111
COMP Side Chain画面	112
EQ画面	114
INS FX画面	115
DUCKER画面	116
DELAY画面	117
SEND TO画面	118

Simpleモード操作ガイド 120

Simpleモードの入り方	120
プリセット、ユースケースの選択	123
選択メニュー画面	123
「ライブ音楽、イベント」の概要	124
「配信」の概要	125
「DAW録音」の概要	126
Simpleモード画面	127
HOME(Overview)画面構成	127
ツールバー	128
入力エリア	129
ミックス選択と出力エリア	131
パラメーター操作例：「配信」ユースケース	133
チャンネルビュー画面	135

音に関する操作 137

HOME画面(Overview)からゲートを操作する	137
HOME画面(Overview)からコンプレッサーを操作する	138
HOME画面(Overview)からゲインを操作する	139
HOME画面(Overview)からEQを操作する	140
HOME画面(Overview)からインサートを操作する	141
HOME画面(Overview)からSSMCSを操作する	142
HOME画面(Overview)からダッカーを操作する	143

HOME画面(Overview)からディレイを操作する	144
SEND TOの設定	145

その他の操作 146

シーンをストアする	146
シーンをリコールする	147
シーンを削除する	148
シーンタイトルを変更する	149
microSDカードに録音する(URX44V、URX44)	150
microSDカードに録音した音声を再生する(URX44V、URX44)	151
モニター機能を使用する	152
PHONESを使用する	153
オシレーターを使用する	154
キュー機能を使用する	155
User Definedノブに機能をアサインする	156
ファームウェアをアップデートする	158

Software Integration機能を使用する(V1.2以降) 160

準備 (DAW Integration)	160
DAW Integration設定手順	161
DAWとの連携	163
Cubaseシリーズ専用画面	163
画面の開き方	164
入力設定画面	165
ハードウェア設定画面	169
MixKeyチャンネルエディター	170
画面の開き方	171

工場出荷時の状態に戻す 173

本体を初期化する	173
----------------	-----

パネルやスタンドに設置する 174

本製品を取り付ける 174

よくあるご質問 175

困ったときは(音声のトラブル) 175

音が出ない 175

音が歪む 177

困ったときは(電源) 178

困ったときは(その他のトラブル) 179

資料 180

商標 180

一般仕様 181

技術仕様 183

エフェクトリスト 189

User Definedノブに割り当て可能な機能 191

USB MAIN信号名対照表 192

寸法図 195

ブロックダイアグラム 196

はじめに

本製品について

URXシリーズは、新たに設計されたマイクプリアンプと、プロフェッショナルグレードのAD/DAコンバーターを搭載し、クラス最高の32-bit/192 kHzに対応したUSBオーディオインターフェースです。

シリーズ最上位ならではの広いダイナミックレンジと高水準のオーディオ性能により、オーディオソースに込められたあらゆるニュアンスや表現を余すことなく捉えます。

録音・制作・演奏・配信をこの1台で

URXシリーズには、音楽制作からオンライン配信まで1台でこなす強力かつ柔軟な接続・ルーティングオプションを備えています。MAINとSUBの2系統のUSBポートにより、PCやスマートフォンなど2台の端末からの音声の集約や、サブ録音・配信システムの構築が可能になります。

URX44、URX44Vは、4つのマイクプリアンプを搭載し、SDカードマルチトラック録音機能を備えています。さらにURX44Vは、HDMIによる映像信号キャプチャー機能およびスルーアウト機能を搭載しています。これ1台で、バックアップ録音や映像信号処理もカバーした制作・配信システムを構築できます。

素早く、直感的に - タッチと物理のデュアル操作インターフェース

URXシリーズに搭載されたタッチLCDパネルと各種物理コントローラーノブは、直感的かつ素早い操作でシームレスなワークフローを実現し、あなたの創造の流れを妨げません。

音に磨きをかけパフォーマンスを強化する内蔵DSP

製品本体に内蔵されたカスタムDSPチップ“SSP3”による様々なエフェクトは、録音から音楽制作、ライブ配信まで、あらゆるシーンの音を磨き上げプロフェッショナルなサウンドクオリティを実現します。さらに、演奏や配信のパフォーマンスをする上で理想的な低レイテンシーかつ高品位なモニター環境を提供します。

ヤマハとスタインバーグが届ける信頼のソリューション

ヤマハとスタインバーグ、それぞれがハードウェアとソフトウェア専門領域で培った技術や強みを結集し、ElgatoやOBS Studioなどの業界定番のブランドやソフトウェアとの協業を通して、皆様の創造的活動を支えるソリューションを提供します。

マニュアルの構成

本製品に関連するマニュアルは、次のとおりです。

紙マニュアル

- セーフティーガイド(同梱)
本製品を安全にご使用いただくために必要な情報が掲載されています。ご使用前に必ずお読みください。巻末に保証とアフターサービスを記載しています。
- スタートガイド(同梱)
本製品をご購入後、最初に行う操作を説明しています。

電子マニュアル

- セットアップガイド
本製品を使うための準備手順や、バンドルソフトウェアのダウンロード方法を説明しています。本体USBドライブ内の「Getting Started」ファイルを開くか、以下のリンクからアクセスできます。
https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/urx44_urx22/sp/
- ユーザーガイド(本ガイド)
本製品のすべての機能について説明しています。
- エフェクトリファレンスガイド
エフェクトのパラメーターについて詳細に説明しています。以下のリンクからアクセスできます。
https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/effect_rg/

同梱のマニュアルはいつでも見られるところに大切に保管してください。また、各マニュアルはヤマハウェブサイトからダウンロードできます。必要に応じてご活用ください。

<https://download.yamaha.com/>

付属品

本製品には次のものが付属します。付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

URX44V

- USB-C to USB-Cケーブル(USB 3.2、1 m) × 1
- 電源アダプター(電源コード含む) × 1
- フェライトコア × 1
- スタートガイド × 1
- セーフティーガイド × 1
- Cubase AI License Card × 1
- Basic FX Suite License Card × 1
- Steinberg Plus License Card × 1

URX44、URX22

- USB-C to USB-Cケーブル(USB 2.0、1.5 m) × 1
- スタートガイド × 1
- セーフティーガイド × 1
- Cubase AI License Card × 1
- Basic FX Suite License Card × 1
- Steinberg Plus License Card × 1

本ガイドの表記方法について

- 本ガイドでは、パネル上の操作子や、画面内に表示される仮想のボタンやノブ類は、名称を[]でくくって表記します。操作子によっては、[]の前にセクション名などを表記する場合があります（例：USER DEFINED KNOBS [1] ノブ）。
- 本文中の説明でモデルごとに仕様が異なる場合、該当するモデル名を()でくくって表記します(例：[MIC/LINE INPUT 1~4]端子(URX44V、URX44)/[MIC/LINE INPUT 1~2]端子(URX22))。
- 本文中では、すべてのモデルをひとまとめにして「URXシリーズ」と表記します。
- 本ガイドでは、特にことわりがない場合、イラストはURX44Vを使用しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお知らせ

- ・ ソフトウェアおよび本ガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ 著作権法などで認められている場合を除いて、第三者のコンテンツ(市販の音楽/サウンドデータ/映像など)を権利者に無断で複製または転用することは禁止されています。

■ 著作権法保護について

- ・ 本製品を国や地域の法律が定める著作権をはじめとする第三者の権利を侵害する用途で使用しないでください。
- ・ あなたが本製品を使用して第三者の権利を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。

■ 本ガイドの記載内容に関するお知らせ

- ・ 本ガイドでは、注意事項などを次のように分類しています。

- ・  **警告**

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

- ・  **注意**

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

- ・ **ご注意**

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。

- ・ **お知らせ**

使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。

- ・ 本ガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。

ソフトウェアについて

URXシリーズには、各種バンドルソフトウェアが用意されています。
各ソフトウェアの詳細については、セットアップガイドをご参照ください。

セットアップガイドは、本体USBドライブ内の「Getting Started」ファイルを開くか、次のリンクからアクセスできます。

https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/urx44_urx22/sp/

各部の名称と機能

トップパネル

お知らせ

イラストはURX44Vを使用しています。モデルによって入出力端子数が異なります。



① ディスプレイ

静電タッチパネルを搭載したカラー液晶画面です。手袋などを着用して操作すると、正しく動作しません。

ご注意

- 先のとがったものや、爪などの硬いもので、画面を操作しないでください。画面を傷つけたり、タッチパネルでの操作ができなくなるおそれがあります。

お知らせ

ディスプレイには、工場出荷時に透明の保護フィルムが貼られていますので、はがしてからご使用ください。

② マルチファンクションノブ

ディスプレイに表示された、4つの主要なパラメーターを操作します。

③ **[TOUCH AND TURN](タッチアンドターン)ノブ**

ディスプレイで選択したパラメーターを操作します。

④ **[⏻](電源)スイッチ(25ページ)**

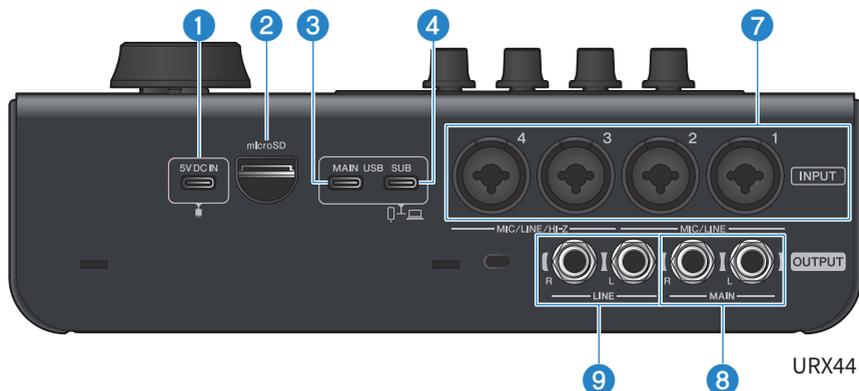
電源のオン/オフを切り替えます。電源がオンの時に点灯します。

リアパネル

URX44V



URX44、URX22(モデルによって入出力端子数が異なります。)



① [16V] DC IN 端子(URX44V)

付属の電源アダプターを接続します。

[5V DC IN]端子(URX44、URX22)

市販のUSB-C 電源アダプターやUSB モバイルバッテリーなどを接続します。コンピューターから十分なバスパワーが供給できない場合に使用します。

お知らせ

- この端子には、USB-CプラグのUSBケーブルを接続してください。
- USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーは、出力がDC 5V(3A以上)のものをご使用ください。

② [microSD]スロット(URX44V、URX44)

microSDカードを挿入するスロットです。

③ [USB MAIN]端子(USB-C™)

URX44V

コンピューターなどを付属のUSBケーブルで接続します。

18 in/18 out、44.1 kHz~192 kHz、32 bitのオーディオ信号を送受信したり、[HDMI IN]端子に入力された映像を送信します。

URX44、URX22

コンピューターなどを付属のUSBケーブルで接続します。バスパワーで動作させるには、出力がDC 5 V(3 A以上)のコンピューターと接続してください。

18 in/18 out (URX44)、16 in/16 out (URX22)、44.1 kHz~192 kHz、32 bitのオーディオ信号を送受信します。

お知らせ

- ・コンピューターのUSB端子がUSB-Aの場合は、市販のUSB-A to USB-Cケーブルで接続してください。
- ・iPad、iPhoneなどのモバイル端末の場合、端末のUSB-C端子と直接USB-C to USB-Cケーブルで接続してください。

機器の故障やデータの損失を防ぐために、下記の注意事項をお守りください。

ご注意

- ・URX44VはUSBバスパワーには対応していません。
- ・コンピューター、iPhone、iPad以外の機器を接続しないでください。
- ・コンピューターと接続するときは、コンピューターや本製品の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。
 - ・USBケーブルは必ず同梱しているものをご使用ください。
 - ・USBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - ・[USB MAIN]端子にケーブルを接続する前に、[⏻](電源)スイッチをオフにするか、音量を最小にしてください。
 - ・本製品の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けてください。
 - ・コンピューターや本製品が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、本製品の電源を入れ直してください。

④ [USB SUB]端子(USB-C)

コンピューターやモバイル端末のUSB端子と市販のUSBケーブル(USB 2.0以上)で接続します。2 in/2 out、48 kHz、24 bitのオーディオ信号を送受信します。

iPad、iPhone、Android端末などのモバイル端末の場合、端末のUSB-C端子と直接USB-C to USB-Cケーブルで接続します。端末にUSB-C端子がない場合は、適切なアダプターを使用して接続してください。

ご注意

- USBバスパワーには対応していません。
- USBケーブルは、3メートル未満のものをご使用ください。
- コンピューター、iPad、iPhone、Android端末などのモバイル端末やコンソールゲーム機以外の機器は接続しないでください。
- 機器の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。
 - ・USBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - ・[USB SUB]端子にケーブルを接続する前に、[⏻](電源)スイッチをオフにするか、音量を最小にしてください。
 - ・本製品の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けてください。
 - ・機器が停止したときは、アプリケーションや機器を再起動するか、本製品の電源を入れ直してください。

5 [HDMI THRU]端子(URX44V)

モニターディスプレイなどのHDMI入力端子とHDMIケーブルで接続します。

6 [HDMI IN]端子(URX44V)

カメラ/ブルーレイプレーヤー/コンソールゲーム機などのHDMI出力端子とHDMIケーブルで接続します。

7 [MIC/LINE INPUT 1~4]端子(URX44V、URX44)

[MIC/LINE INPUT 1、2]端子(URX22)

マイクや楽器を接続します。XLRタイプ、TRS フォーンタイプの両プラグに対応したコンボ端子です。URX44V、URX44の[MIC/LINE INPUT 3、4]端子はHI-Zに対応しています。

URX22の[MIC/LINE INPUT 2]端子はHI-Zに対応しています。

[HEADSET]端子にマイクを接続している場合は、[MIC/LINE INPUT 1]端子からの信号は入力されません。

HI-Z対応端子には、エレキギターやエレキベースなど出力インピーダンスの高い楽器を接続します。接続にはフォーンタイプのアンバランスケーブルをご使用ください。接続後、該当チャンネルの入力設定画面(101ページ)でHI-ZボタンをONにしてください。

8 [OUTPUT MAIN]端子

パワードモニタースピーカーなどを接続するTRSフォーン端子です。

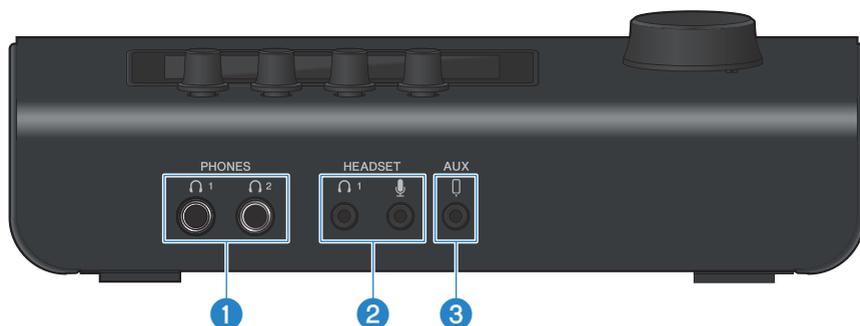
9 [OUTPUT LINE]端子(URX44V、URX44)

パワードモニタースピーカーなどを接続するTRSフォーン端子です。

10 コードフック(URX44V)

電源アダプターのコードを引っ掛けるフックです。引っ掛けるとプラグが抜けにくくなります。

フロントパネル



① [PHONES 1、2]端子

ヘッドホンを接続するTRSフォーン端子です。[HEADSET]端子にヘッドホンが接続している場合、[PHONES 1]からの音声はミュートされます。

② [HEADSET]端子

ヘッドセットを接続するヘッドホン端子、マイク端子です。[HEADSET]端子にヘッドホンが接続している場合、[PHONES 1]からの音声はミュートされます。

また[HEADSET]端子にマイクを接続している場合、リアパネルの[MIC/LINE INPUT 1]端子からの音声は入力されません。

③ [AUX]端子

スマートフォンなどの外部機器を接続します(3.5 mm 3極ミニプラグ)。

サイドパネル(URX44V)

通風孔

URX44Vには冷却用ファンが装備されています。本体内部の温度が高くなると、ファンが自動で回転します。ここから排気が行われますので、障害物などで通風孔をふさぐことのないようにご注意ください。



注意

- 本製品の通風孔(放熱用スリット)をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため本製品の側面には通風孔があります。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

準備する

TOOLS for MGX/URXをインストールする

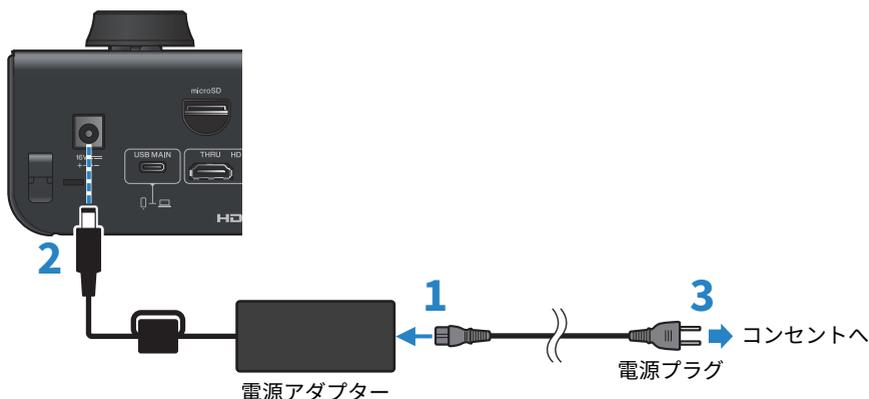
TOOLS for MGX/URXは、本製品をコンピューターに接続して使用するために必要なソフトウェア一式です。以下の手順に従って、TOOLS for MGX/URXをコンピューターにインストールしてください。

- 1** 次のURLにアクセスし、TOOLS for MGX/URXをダウンロードします。
<https://www.yamaha.com/2/urx/>
- 2** ダウンロードしたファイルを解凍(展開)します。
- 3** TOOLS for MGX/URX Installerを起動します。
- 4** 画面の指示に従ってインストールします。

以上で、TOOLS for MGX/URXのインストールは完了です。

電源を接続する (URX44V)

リアパネルの[16V] DC IN 端子に、図の順序で付属の電源アダプターを接続します。



お知らせ

- 電源アダプター/電源コードを外すときは、電源をオフしてから、逆の手順で行ってください。
- 電源プラグの形状は国や地域によって異なる場合があります。
- 電源アダプターのコードをフックに引っ掛けると、電源プラグが抜けにくくなります。



警告

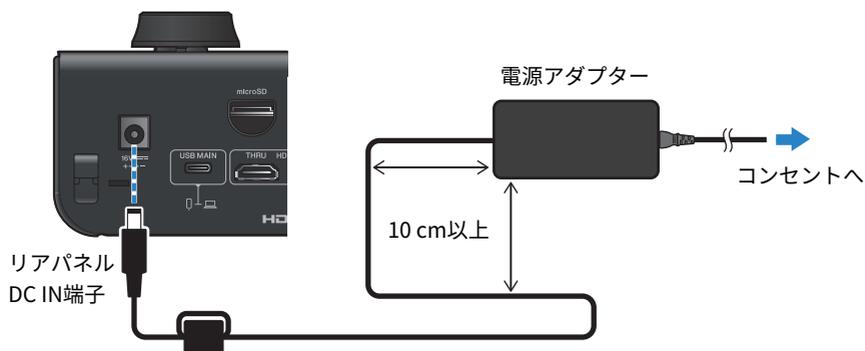
- 電源アダプターと電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源アダプターと電源コードを使用した場合、故障、発熱、火災などの原因になります。
- 本体はコンセントの近くに設置してください。異常を感じた場合にはすぐに電源をオフにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ご注意

- 本体が電源オフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源アダプターを電源コンセントから抜いてください。
- 電源アダプターのコードをフックに引っ掛けた状態でコードを強く締めこんだり、コードを引っ張ったりしないでください。コード表面の磨耗やフックの破損につながります。

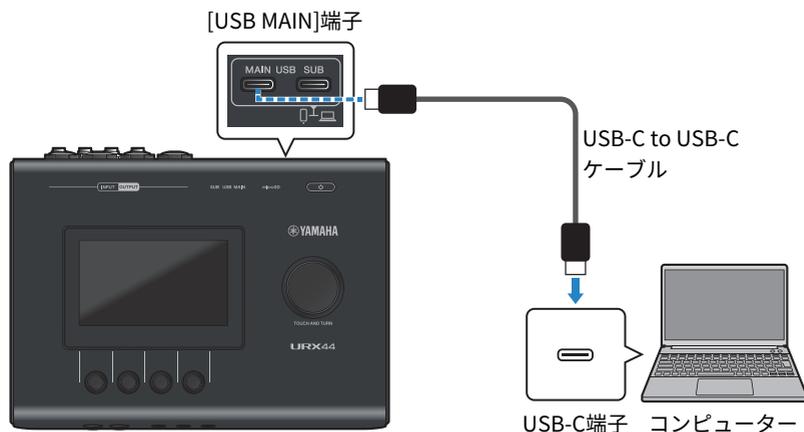
■ 電源アダプターの設置に関するご注意

下の図のように、DC コードを電源アダプター本体から10 cm以上離して設置してください。10 cm以上離して設置しないと、電源アダプターが発する電波の影響で、周囲の機器が誤動作したり、一時的に性能が低下したりすることがあります。



電源を接続する(URX44、URX22)

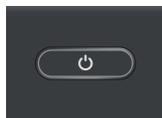
付属のUSBケーブルで、本体の[USB MAIN]端子とコンピューターのUSB-C端子を接続します。コンピューターから十分なバスパワーが供給できない場合は、本体の[5V DC IN]端子に市販のUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーなどを接続します。



お知らせ

- 市販のUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーは、出力がDC 5V(3A以上)のものをご使用ください。
- コンピューターのUSB端子がUSB-Aの場合は、市販のUSB-A to USB-Cケーブルで接続してください。この場合は、本体の[5V DC IN]端子に、市販のUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーの接続が必要です。

電源をオン/オフする



警告

- 電源をオン/オフする前に、必ず本製品や接続している機器の音量(ボリューム)を最小にしてください。聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

電源オン

トップパネルの[⏻](電源)スイッチを押します。[⏻](電源)スイッチが点灯します。

お知らせ

初めて本製品の電源をオンにしたときは、使用する言語、日時、操作モード(42ページ)を設定する画面が表示されますので、画面に従って操作をしてください。

電源オフ

トップパネルの[⏻](電源)スイッチを長押しします。ディスプレイの指示に従い、[OK]を選択すると、[⏻](電源)スイッチが消灯します。

お知らせ

電源がオンの状態で設定した時間操作がなかった場合、オートパワーオフ機能が働いて、自動で電源がオフになります(65ページ)。URX44Vはデフォルトでオートパワーオフが有効です。

ご注意

- [⏻](電源)スイッチのオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。
- [⏻](電源)スイッチをオフにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。
- 電源をオフにするときは、必ずトップパネルの[⏻](電源)スイッチを長押しし、ディスプレイの指示に従ってください。
- 電源アダプターのプラグ、USBケーブルを抜くなど直接電源を遮断した場合は、データのバックアップに失敗したり、microSDカードのファイルシステムが壊れたりする場合があります。

コンピューターと接続する

- 1 付属のUSBケーブルで、リアパネルのUSB MAIN端子とコンピューターのUSB-C端子を接続します。

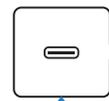
URX44V



URX44、URX22



USB-C端子



コンピューター

USB-C to USB-C
ケーブル

お知らせ

コンピューターのUSB端子がUSB-Aの場合は、市販のUSB-A to USB-Cケーブルで接続してください。この場合は、本体の[5V DC IN]端子に、市販のUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーの接続が必要です。

- 2 トップパネルの[⏻](電源)スイッチを押して、電源をオンにします。



警告

- 電源をオンにする前に、必ず機器音量(ボリューム)を最小にしてください。聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

- 3 USB Audioを使用する場合は、コンピューターの「サウンド」(Windows)または「オーディオ装置」(Mac)の設定をします(30ページ、31ページ)。

ファームウェアをアップデートする

本製品は、操作性向上や機能の追加、不具合の修正のために、本体のファームウェアをアップデートできる仕様になっています。

ファームウェアは、常に最新版をお使いいただくことをおすすめします。

ファームウェアのアップデート方法は、「その他の操作」(158ページ)をご参照ください。

接続する

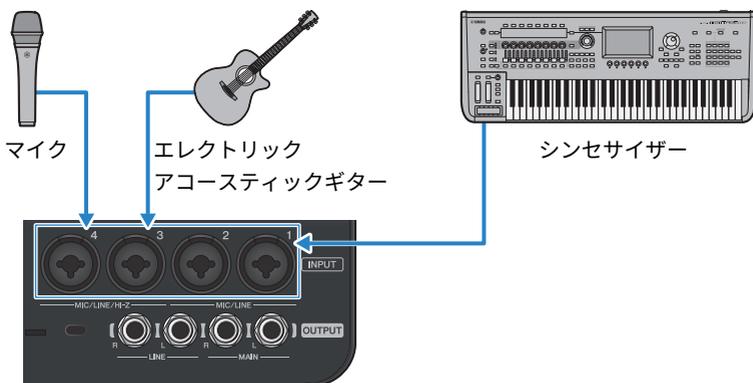
アナログ入出力と接続する

■ アナログ入力の接続例

INPUT端子には、マイクや電子楽器、オーディオ機器などのラインレベルの機器を接続します。

URX44V、URX44の[MIC/LINE INPUT 3、4] 端子、URX22の[MIC/LINE INPUT 2] 端子はHI-Zに対応しています。

HI-Z対応端子には、エレキギターやエレキベースなど出力インピーダンスの高い楽器を接続します。



■ アナログ出力の接続例

OUTPUT端子にはスピーカーを接続します。

PHONES端子にはヘッドホン接続します。

接続する > アナログ入出力と接続する



モニタースピーカー



ヘッドホン

コンピューターと接続する(Windows)

はじめに、「TOOLS for MGX/URX」をインストールすると、本製品をコンピューターに認識させるドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が自動的にインストールされます。「TOOLS for MGX/URX」は、次のウェブサイトからダウンロードしてインストールします。

<https://www.yamaha.com/2/urx/>

コンピューターとの接続手順については、「準備する」→「コンピューターと接続する」(26ページ)をご参照ください。

お知らせ

- 手順はコンピューターやOSの設定によって異なる場合があります。
- 対応OSについては、上記のヤマハウェブサイトをご参照ください。

コンピューターの設定

コンピューターの出力/入力の設定をURXシリーズへ変更します。

- 1 「スタート」メニューから「設定」を開きます。
- 2 「システム」→「サウンド」を選択します。
- 3 「サウンド」画面上で、出力/入力デバイスとしてA～C (Yamaha URX**)を選択します。
**にはモデル名(44V、44、22)が入ります。
- 4 「サウンド」設定を終了します。

コンピューターと本体ディスプレイの信号名について

コンピューターのサウンド/DAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(192ページ)をご参照ください。

各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(101ページ)。

コンピューターと接続する(Mac)

はじめに、「TOOLS for MGX/URX」をインストールすると、本製品をコンピューターに認識させるドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が自動的にインストールされます。「TOOLS for MGX/URX」は、次のウェブサイトからダウンロードしてインストールします。

<https://www.yamaha.com/2/urx/>

コンピューターとの接続手順については、「準備する」→「コンピューターと接続する」(26ページ)をご参照ください。

お知らせ

- 対応OSについては、上記のヤマハウェブサイトをご参照ください。
- USB-C端子を搭載していないMacの場合は、市販のUSB-A to USB-Cケーブルで接続します。

コンピューターの設定

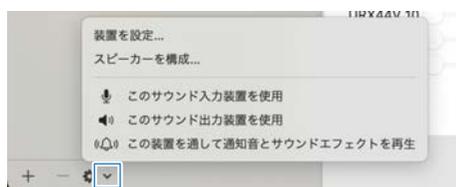
1 「Finder」→「移動」→「アプリケーション」→「ユーティリティ」→「Audio MIDI設定」を開きます。

2 オーディオ装置の画面左側のリストからYamaha URX** DAWまたはYamaha URX** A～Cを選択します。

**にはモデル名(44V、44、22)が入ります。

オーディオ装置画面が表示されていない場合は、メニューの「ウィンドウ」→「オーディオ装置を表示」を選ぶと表示されます。

3 画面左下の[▼]をクリックして「このサウンド出力装置を使用」を選択します。



4 同様に「このサウンド入力装置を使用」を選択します。

手順3と手順4を完了すると、リストの[Yamaha URX**]の右下にマイクとスピーカーのアイコンが表示されます。

5 Audio MIDI設定を終了します。

接続する > コンピューターと接続する(Mac)

コンピューターと本体ディスプレイの信号名について

コンピューターのサウンド/DAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(192ページ)をご参照ください。

各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(101ページ)。

モバイル端末と接続する

お知らせ

対応OSについては、次のヤマハウェブサイトをご参照ください。

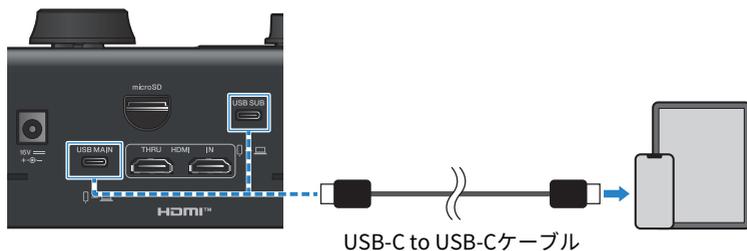
- <https://www.yamaha.com/2/urx/>

■ USB-C端子搭載のiPad、iPhone、Android端末の場合

用意するもの

- 付属のUSBケーブル

- 1** 市販のUSB-C to USB-Cケーブルを使って、本製品の[USB MAIN]端子または[USB SUB]端子とiPad/iPhoneを接続します。Android端末は本製品の[USB SUB]端子と接続します。



接続が完了すると、本製品が自動的にiPad、iPhone、Android端末で認識されます。
iPad、iPhone、Android端末の設定は必要ありません。

お知らせ

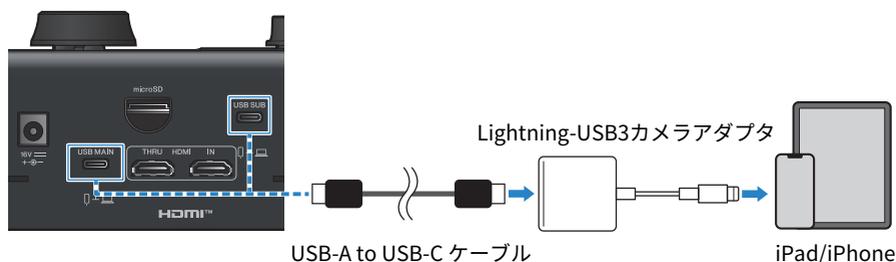
配信/長時間使用時は、iPad/iPhoneの場合はApple社製USB-C Digital AV Multiportアダプタ(市販品)、Android端末の場合は市販のUSB Power Delivery (USB PD)対応オーディオ変換アダプターなどで給電しながらお使いいただくことをおすすめします。

■ Lightning端子搭載のiPad/iPhoneの場合

用意するもの

- ・ Apple 社製Lightning-USB3カメラアダプタ(市販品)
- ・ USB-A to USB-C ケーブル(市販品)
 - ・ URX44、URX22：USB 2.0 (High Speed) 以上
 - ・ URX44V：USB 3.0 (Super Speed) 対応

- 1** 市販のUSB-A to USB-C ケーブルを使って、本製品の[USB MAIN]端子または[USB SUB]端子とApple社製Lightning-USB3カメラアダプタを接続します。
- 2** Apple社製Lightning-USB3カメラアダプタとiPad/iPhoneを接続します。



接続が完了すると、本製品が自動的にiPad/iPhoneで認識されます。

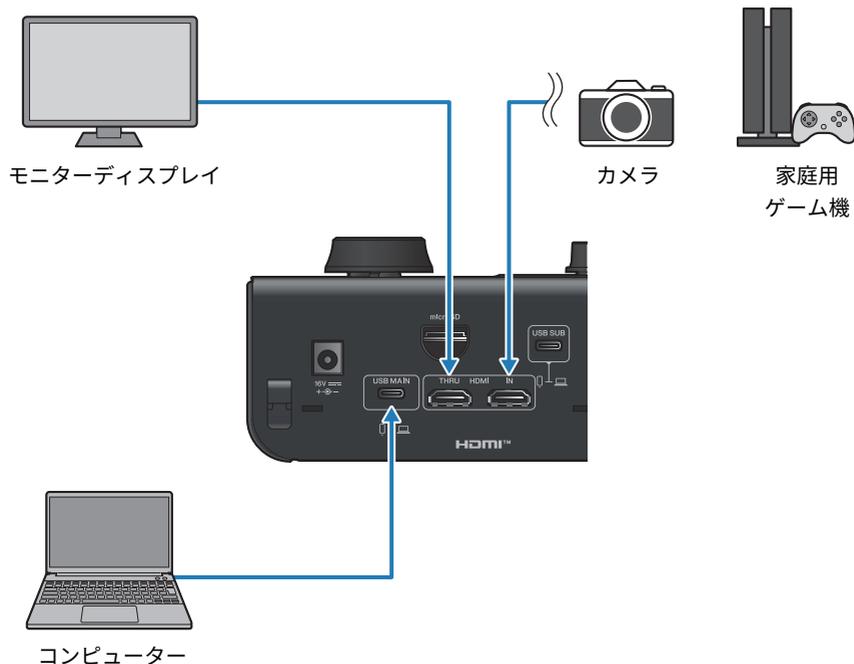
iPad/iPhoneの設定は必要ありません。

iPad/iPhoneと本体ディスプレイの信号名について

iPad/iPhoneのDAWアプリで見える信号名と、Input Source(入力ソース)として本体ディスプレイに表示する信号名については、「USB MAIN信号名対照表」(192ページ)をご参照ください。各チャンネルの入力ソースはINPUT画面で選択してください(101ページ)。

映像機器と接続する(URX44V)

■ 接続例



- [HDMI IN]端子に入力された映像信号は、そのまま[HDMI THRU]端子にパススルー出力されます。また、UVC映像信号にフォーマット変換され、[USB MAIN]端子からコンピューターに出力されます。
- [HDMI IN]端子に入力された音声信号はダウンミックスされ、ミキサーのインプットセレクトの選択肢として入力チャンネルに取り込まれます。本体設定でHDMI入力に2チャンネル音声を選択した場合のみ、[HDMI THRU]端子にそのまま出力されます(63ページ)。
- コンピューターへの映像出力信号には音声は含まれません。音声は別途USB オーディオとして取り込む必要があります。ミキサー入力にHDMIを選択し(101ページ)、Output PatchのUSBメニューでUSB MAIN(A/B/C)にパッチする設定が必要です(61ページ)。

コンピューターへの映像の入力設定(URX44V)

コンピューターのアプリケーション(アプリ)の映像入力として[Yamaha MGX/URX Video]を選択してください。本製品の設定は必要ありません。

お知らせ

- HDMI入力がHDCPで保護されている場合、音声および映像はキャプチャできません。
- HDMIソース機器側でHDCPを無効にできる場合は、無効に設定してください。また、本製品側のHDCPを無効にする(63ページ)ことで問題が解決する場合があります。

■ HDMIについて

URX44Vは4K/60 Hz(音声はPCM 8ch、192 kHz/24 bit)までのHDMI信号入力に対応しています。

- HDMI IN: 映像 ~4K60、音声 ~8ch/192 kHz/24 bitです。ただし本製品内部で2chにダウンミックスされ、本体サンプリング周波数に合わせてリサンプリングされます。
- HDMI THRU: 映像音声ともにパススルーします。ただし本体設定でHDMI入力のマルチチャンネル音声をオンにした場合は、HDMI THRU端子には音声は出力されません。

お知らせ

- 本製品がスタンバイ中は、HDMI信号のパススルーはできません。
- 本製品はARC/eARCには対応していません。
- 機器の接続には、HDMIロゴ入りのHDMIケーブル(19ピン)をご使用ください。また、信号の品質劣化を防ぐため、短いケーブルのご使用をおすすめします。

画面概要と基本操作

画面の概要

トップパネルのディスプレイ画面は、大きく4つのエリアに分かれています。タッチによる選択やノブを使用して、対応する詳細設定や機能画面に移動できます。



1 ツールバー

頻繁に使用する機能やシステム設定画面へのアイコンが用意されています。メインエリアの表示を切り替えても、ツールバーは常に表示されます。(表示する画面によって、アイコン数などが異なります。)

2 メインエリア

画面やチャンネルの選択に合わせた内容を表示します。

3 サイドメニュー

メインエリアに表示するメニューを切り替えます。

4 マルチファンクションノブ切り替えボタン

USER DEFINED KNOBSモードをオン/オフします(38ページ)。

画面の基本操作

■ タッチによる直接操作

ツールバーの各アイコンボタンやメニューをタッチすると、画面が直接切り替わります。

お知らせ

- 複数ページに分割された画面では、左右端にある矢印ボタンをタッチすると、ページ間を移動できます。



- グラフ上のハンドルは、タッチして直接操作できます。



■ [TOUCH AND TURN](タッチアンドターン)ノブ

画面内の操作したいパラメーターをタッチすると、[TOUCH AND TURN]ノブですぐに操作できます。このとき、タッチしたパラメーターにピンク色の枠が表示されます。



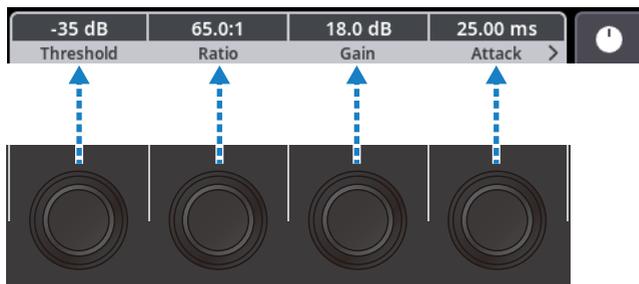
EQの操作中にノブを押し込むと、Gain(ゲイン)またはFreq.(周波数)に切り替えられます。



直接操作が可能な状態

■ マルチファンクションノブを利用した操作

マルチファンクションノブは画面上の主要パラメーター4つを直接操作できます。



パラメーター数が多い場合は、[<]または[>]をタッチして対象パラメーターを切り替えます。



USER DEFINED KNOBSモードがオンのときは、設定したパラメーターの値を操作できます。USER DEFINED KNOBSの4バンク(1~4)は[<]または[>]をタッチしてバンクを切り替えます。選択しているバンク番号は、下図枠内に表示されます。



USER DEFINED KNOBSモードのパラメーター設定については、[SETUP]画面→[トップメニュー]→[User Defined Knobs]メニュー(59ページ)をご参照ください。

お知らせ

マルチファンクションノブで操作中のパラメーターは、薄紫色でフォーカスされます。



■ 画面内のユーザーインターフェース

ボタン

特定の機能を実行したり、パラメーターのオン/オフを切り替えたり、複数の選択肢から1つを選択したりするときに使用します。オン/オフを切り替えるボタンは、オンのときは色がはっきりと表示されます。オフに設定されているときは薄暗く表示されます。



詳細設定用の別画面がポップアップ表示されます。



プルダウンメニューを表示します。



一つ前の画面に戻ります。

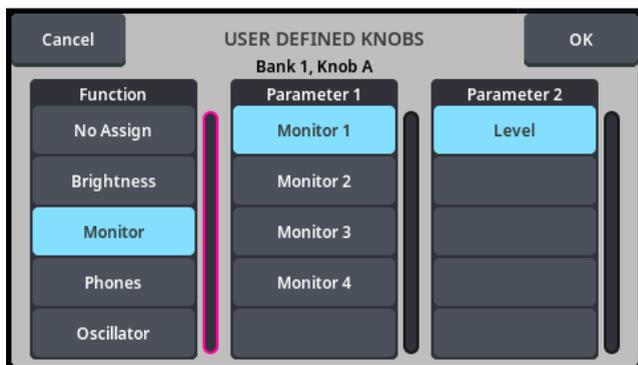


HOME画面に戻ります。

HOME画面でタッチした場合は、選択しているチャンネルのチャンネルビュー画面を表示します。

リスト画面

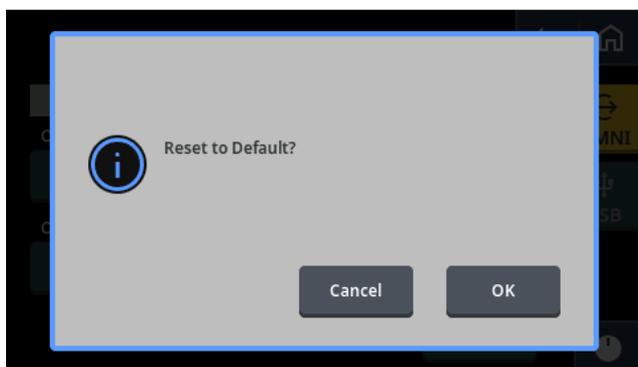
USER DEFINED KNOBSの設定画面など、リストから項目を選ぶ場合は、次のような画面が表示されます。



リスト内では、ピンク色の項目が操作対象として選択されます。[TOUCH AND TURN]ノブを使用してリストを上下にスクロールします。

ダイアログ

直前に行った操作に対して、確認が必要なときは次のようなダイアログが表示されます。[OK]をタッチすると操作が実行されます。[Cancel]をタッチすると操作が取り消されます。



スクロールする

スクロールバーが表示されている画面では、画面を上下または左右にスクロールすると、続きの画面が表示されます。

Operation Mode(操作モード)について

操作モードの設定

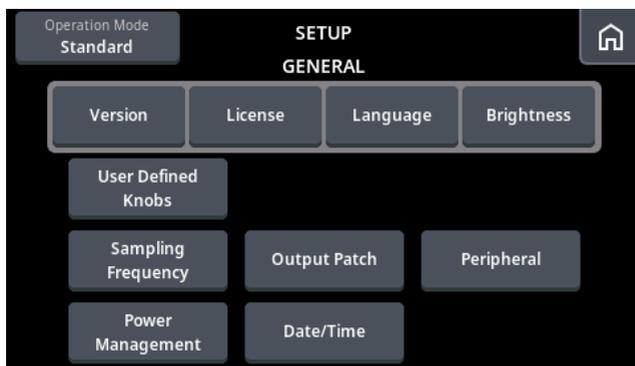
本製品の操作モードは2種類あります。Simple モードは、あらかじめ用意されたユースケースに合わせて、使用できる機能が設計されています。チュートリアルに従って設定でき、シンプルなUI操作で運用できます。Standard モードはすべての機能を使用できます。

お知らせ

- 初めて電源をオンにしたときは、言語選択と日時設定画面に続いて操作モードの選択画面が表示されます。表示された画面で、Simple モードかStandard モードを選択します。
- モード選択を行わずに電源をオフにした場合、次回起動時はStandard モードのOverview画面が自動で表示されます。

■ 操作モードの設定手順

- 1 ツールバーの[] をタッチして、SETUP画面を表示します。



- 2 画面左上の[Operation Mode (Simple/Standard)]をタッチします。

3 Simple モードまたはStandard モードを選択します。



■ 操作モード切り替え時の設定値

• Simple モード→Standard モード

Simple モードで操作していた設定値はそのままStandard モードに引き継がれます。

• Standard モード→Simple モード

Standard モードの設定値は破棄され、Simple モード用に初期化されます。

Simpleモード

Simpleモードには、さまざまなユースケースに対応した設定が簡単に行える機能が搭載されています。

設定アシスタントの画面指示に従って、使用モードの選択や必要な設定を行うだけで、URXシリーズを簡単に活用できます。



自動レベル調整機能

[Auto]ボタンをタッチして、入力レベルを自動で調整できます。調整中は、実際に使用する音量で話したり、歌ったり、演奏したりしてください。

自動調整が完了すると、最適な入力レベルに設定されます。



Simpleモードの詳細については、「Simpleモードの入り方」(120ページ)をご参照ください。

Standardモード

Standardモードは、すべての機能を使用できます。

本ガイド内の画面構成などは、Standardモードで説明しています(46ページ)。

必要な操作の詳細は、各項をご参照ください。

HOME画面(Overview)

画面構成

本製品のStandardモードのメイン画面です。起動時はこの画面が表示されます。

他の画面を表示中にツールバーにある  ボタンをタッチすると、この画面に戻ります。
この画面を表示中に  ボタンをタッチすると、選択中のチャンネルのチャンネルビュー画面が表示されます。



メインエリア

ツールバー



- 1 [SCENE]画面を表示します（74ページ）。
- 2 メインエリアに表示するチャンネルバンクを選択します(48ページ)。
- 3 [SETUP](設定)画面を表示します（54ページ）。
- 4 [microSD]画面を表示します。microSDの再生中/録音中は  /  が表示されます（78ページ）。
- 5 [MONITOR](モニター)画面を表示します（68ページ）。
- 6 [HOME]画面を表示します（46ページ）。

メインエリア

チャンネル表示

メインエリアの各チャンネル部分をタッチして選択します。選択したチャンネルは白色枠でフォーカスされます。黄色枠部分をタッチすると、チャンネルビューが表示されます(90ページ)。



チャンネルバンク

メインエリアには一度に4チャンネル表示されます。一度に表示されるチャンネルの塊をチャンネルバンクといいます。

チャンネルバンクの切り替え

チャンネルバンクは次の方法で切り替えることができます。

- ツールバーのチャンネルバンク選択ボタンをタッチ
- メインエリアの左右スワイプ

お知らせ

左右スワイプでは、インプットチャンネルバンクとアウトプットチャンネルバンクの切り替えはできません。

チャンネル表示バリエーション

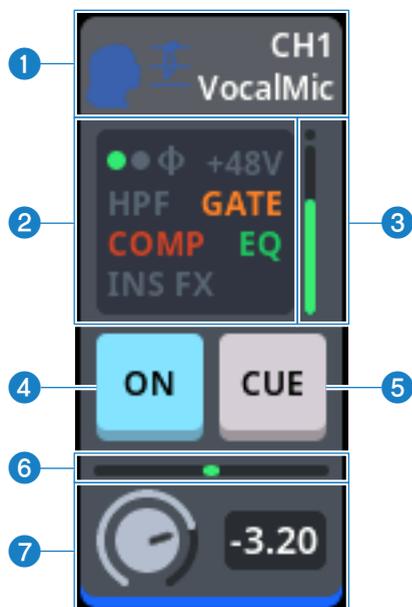
 <p>CH1 VocalMic</p> <p>HPF GATE COMP EQ INS FX</p> <p>ON CUE</p> <p>-3.20</p>	 <p>CH9/10 Keyboard</p> <p>DUCKER EQ</p> <p>ON CUE</p> <p>-2.80</p>	 <p>FX1 Reverb</p> <p>ON CUE</p> <p>8.40</p>
 <p>STEREO main</p> <p>EQ INS FX</p> <p>ON CUE</p> <p>2.40</p>	 <p>MIX 1 Monitor</p> <p>EQ INS FX</p> <p>ON CUE</p> <p>-5.00</p>	 <p>STREAMING OBS</p> <p>DELAY CUE</p>

ステレオペア時のチャンネル表示(V1.2以降)



「チャンネル設定画面」(92ページ)のSignal TypeでSTEREOを選択すると、奇数/偶数チャンネルのPANスライダーの間にハートマーク(♡)が表示されます。該当チャンネルはMONO INチャンネルです。

チャンネルエリア



① チャンネルネームエリア

チャンネルアイコン、チャンネルID、チャンネルネームを表示します。

お知らせ

ST INチャンネルでは、チャンネルネームエリアをタッチすると、②のインジケータエリアに情報を表示するチャンネル(L/R)を切り替えられます。



② チャンネルインジケータエリア

チャンネルへの入力信号レベルや各種設定を表示します。詳細は「チャンネル専用画面」(100ページ)の項をご参照ください。チャンネルを選択した状態でタップすると、チャンネルビューが表示されます。

③ チャンネルメーター

-60 dB~0 dBまでのレベルインジケータです。
ステレオのチャンネルは、ステレオメーターで表示されます。

4 [ON]ボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときに点灯します。

5 [CUE]ボタン

チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。CUEがオンのときに点灯します。

6 PAN/BALANCEスライダー

チャンネルのPANまたはBALANCEを表示します。

7 センドレベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブで操作します。ノブを回すとSENDレベルを調整できます。

お知らせ

マルチファンクションノブをUSER DEFINED KNOBSモードオンにしている場合、SENDレベルノブの操作はできません。

サイドメニュー



1 [Sends]ボタン

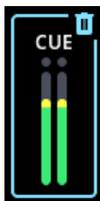
メインエリアに表示されているチャンネルのセンド先を選択します。タッチすると、センド先選択メニューが表示されます。

2 STEREO/CUEメーター

STEREOアウトチャンネルのポストフェーダーレベルを表示します。CUEがオンの場合は、CUEパスのレベルを表示します。メーターエリアにタッチすると全CUEがオフ(CLEAR CUE機能)となり、STEREOアウトチャンネルの表示に戻ります。



STEREOメーター



CUEメーター

3 マルチファンクションノブ切り替えボタン

USER DEFINED KNOBSモードをオン/オフします。



USER DEFINED KNOBモードオフ時



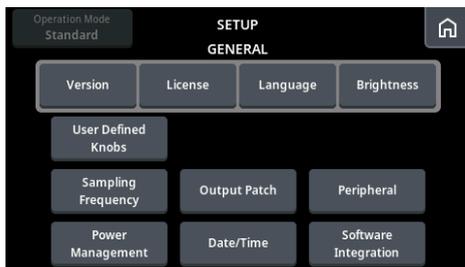
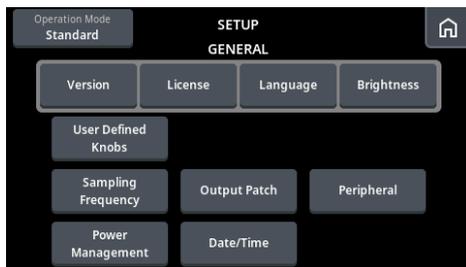
USER DEFINED KNOBモードオン時

SETUP画面

トップメニュー

GENERALメニュー

ツールバーの  をタッチすると表示されるトップメニューです。各ボタンをタッチしてバージョン画面やライセンス画面の表示、各設定画面の呼び出しができます。



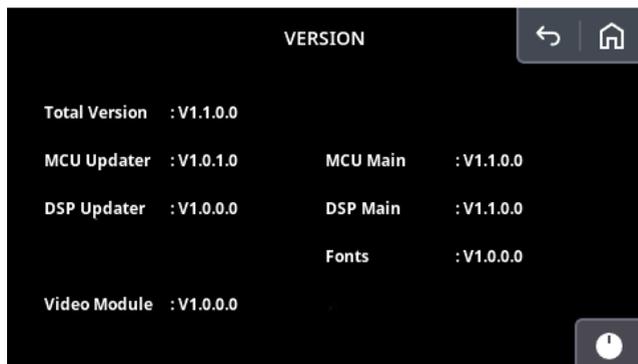
(V1.2以降)

お知らせ

URX22にはDate/Timeメニューがありません。

Versionメニュー

システムソフトウェアのバージョン情報が表示されます。



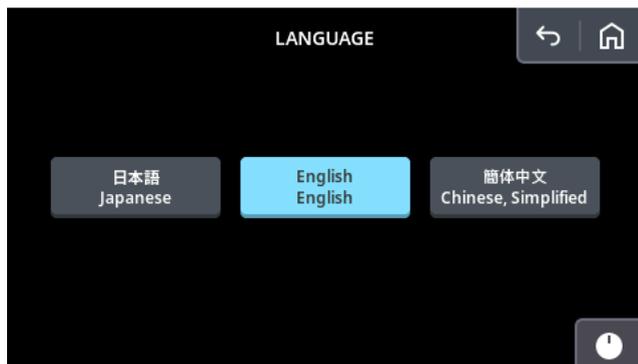
Licenseメニュー

システムソフトウェアのライセンス情報を表示するLICENSE画面が表示されます。
[TOUCH AND TURN]ノブで表示をスクロールできます。



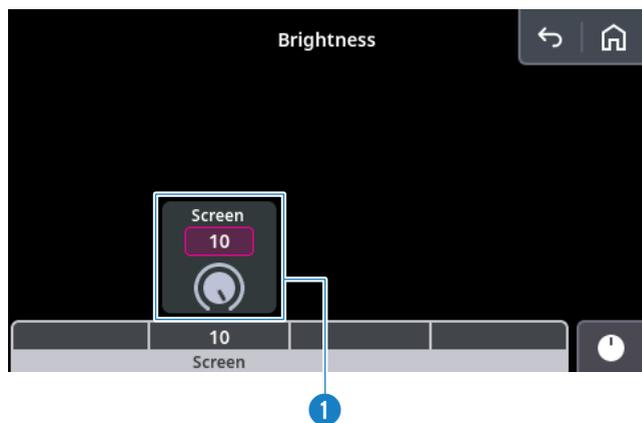
Languageメニュー

表示言語の選択ができます。



Brightnessメニュー

ディスプレイの明るさを設定します。

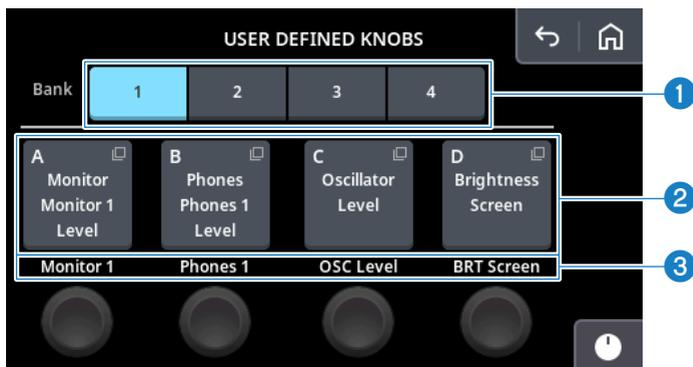


1 Screen

ディスプレイ(LCD画面)の明るさを設定します。

User Defined Knobsメニュー

USER DEFINEDノブの設定をします。BANKは1~4まで用意されており、A~Dのノブに選択した機能を割り当てできます。



① [Bank] 1~4

設定対象のバンクを選択します。

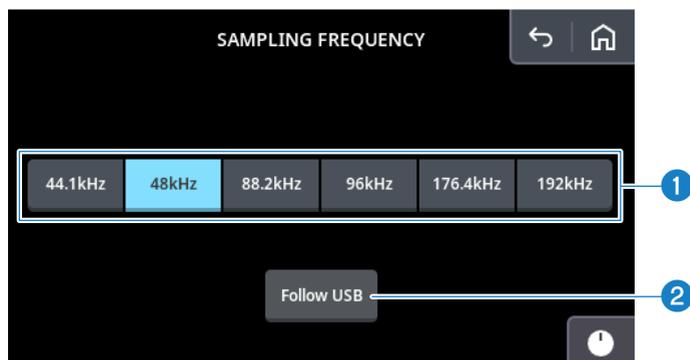
② [USER DEFINED KNOBS] A-D

設定しているパラメーターを表示します。タッチすると、設定メニュー画面が表示されます。

③ [USER DEFINED KNOBS]表示文字列

USER DEFINED KNOBSの機能をオンにしたときに、画面下部の欄に略記で表示される文字列を表示しています。

Sampling Frequencyメニュー



① [44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz] ボタン

ミキサーおよび信号処理のサンプリング周波数を選択します。

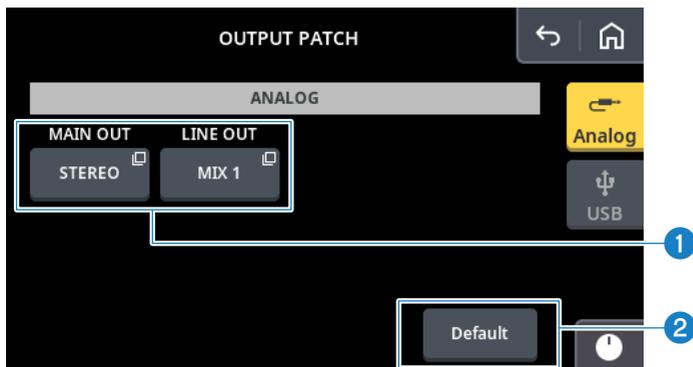
② [Follow USB]ボタン

オンにすると、USB MAIN端子に接続されたコンピューターのサンプリング周波数の設定と同じになります。

Output Patchメニュー

■ ANALOGメニュー

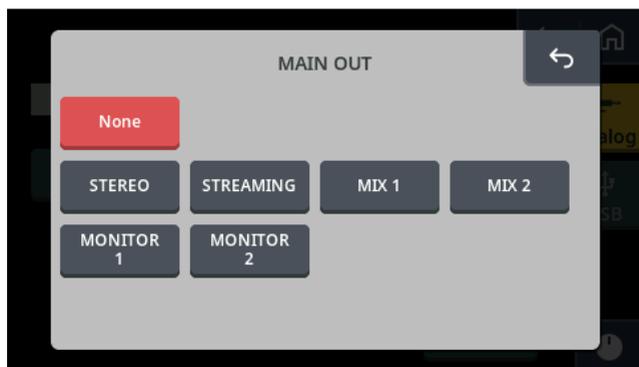
OUTPUTの出力端子/出力ポートに出力する信号を設定します。



① 出力ソース選択ボタン

タッチすると出力ソースの選択メニューがポップアップします。表示された画面でソースを選択します。

選択ソース一覧

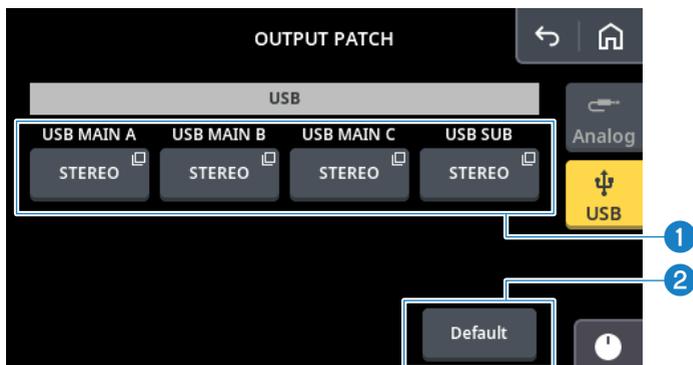


② [Default]ボタン

パッチ設定をリセットします。タッチして、表示されたダイアログで[OK]を押すとリセットされます。

■ USBメニュー

USBの出力端子/出力ポートに出力する信号を設定します。



① 出力ソース選択ボタン

タッチすると出力ソースの選択メニューがポップアップします。表示された画面でソースを選択します。

選択ソース一覧

URX44V、URX44



URX22



② [Default]ボタン

パッチ設定をリセットします。タッチして、表示されたダイアログで[OK]を押すとリセットされます。

お知らせ

(URX44V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はUSBに出力できません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからUSBに送られる音声は自動的にミュートされます。

Peripheralメニュー

■ USB Mainメニュー

USB端子の設定をします。



1 [Generic Driver Audio Channel Suppression]

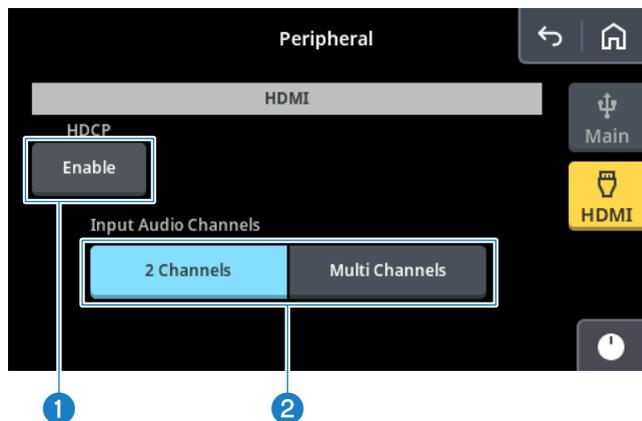
iPad/iPhoneなどの標準ドライバーで接続した際の入出力チャンネル制限を設定します。

- [None]：制限なし
- [2 Channels]：2 IN/2 OUTに制限されます。

2 IN/2 OUTのオーディオストリームにのみ対応しているアプリと使用する場合は[2 Channels]を選択してください。

■ HDMIメニュー (URX44V)

HDMIの設定をします。



① HDCP[Enable]ボタン

本製品のHDCP(高帯域デジタルコンテンツ保護)の有効/無効を設定します。ボタンがオンでHDCP有効、オフでHDCP無効になります。

② [Input Audio Channels]

HDMIオーディオ入力のチャンネル数と対応サンプリング周波数を設定します。

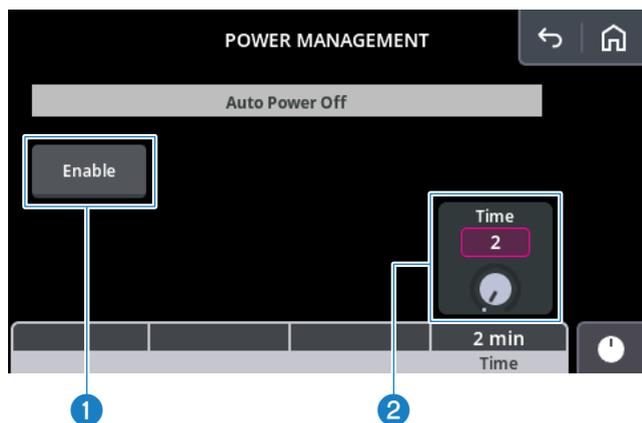
- [2 Channels] : 常に2チャンネル (最大48 kHz)
- [Multi Channels] : 最大192 kHz/8チャンネルまで対応

マルチチャンネル入力の場合でも、ミキサー内部でステレオ(2チャンネル)にダウンミックスされます。

Power Managementメニュー

■ Auto Power Offメニュー

指定した時間、操作がなかったときに自動で電源をオフにできます。



① [Enable]ボタン

オートパワーオフ(自動電源オフ)機能をオンにします。

② [Time]ノブ

ノブ/テキスト付近をタッチし、フォーカスします。[TOUCH AND TURN]ノブを操作して、最後の操作からオートパワーオフまでの時間(無操作時間)を設定します。2～20分の間を1分単位で設定できます(初期設定は20分)。

お知らせ

オートパワーオフ機能をオフ(Disable)にすると、自動で電源が切れなくなるため、機器は常に動作状態となり、消費電力が増加します。

Date/Time メニュー(URX44V、URX44)

本体の日付と時刻を設定します。



1 [Date/Time]ポップアップボタン

表示された画面で、日付と時刻を設定します。変更したい項目をタッチして[TOUCH AND TURN]ノブで操作します。設定が完了したら[OK]ボタンをタッチすると、設定が適用されポップアップ画面が閉じます。[Cancel]ボタンをタッチすると、設定が適用されずにポップアップ画面が閉じます。

2 [Time Zone]ポップアップボタン

表示された画面で、タイムゾーンの都市名を選択します。

3 [Display Format] Dateボタン

日付表示のフォーマットを選択します。

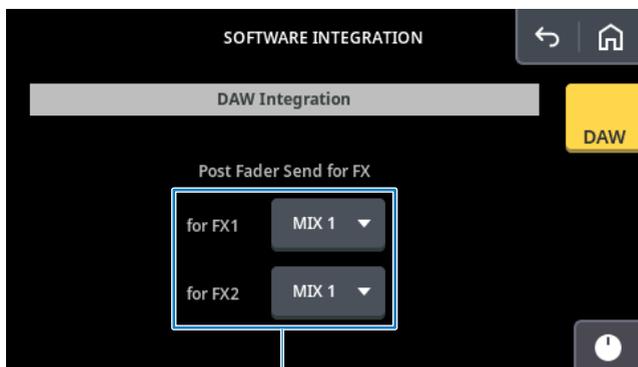
4 [Display Format] Timeボタン

時刻表示のフォーマットを選択します。

Software Integrationメニュー(V1.2以降)

コンピューターと接続し、対応ソフトウェア(Steinberg Cubase、Nuendo、MixKey)を起動すると表示されます。Software Integrationについての詳細は「Software Integration機能を使用する(V1.2以降)」(160ページ)をご参照ください。

■ DAW Integrationメニュー



① [Post Fader Send for FX]選択ボタン

FX1とFX2に送るMIXバスを選択します。 SENDポイントはポストフェーダーです。

MONITOR画面

トップメニュー

ヘッドホンやニアフィールドモニターで確認する信号の操作をします。常時モニターするソースの選択、モニター音のモノラル化、CUE機能などを操作します。

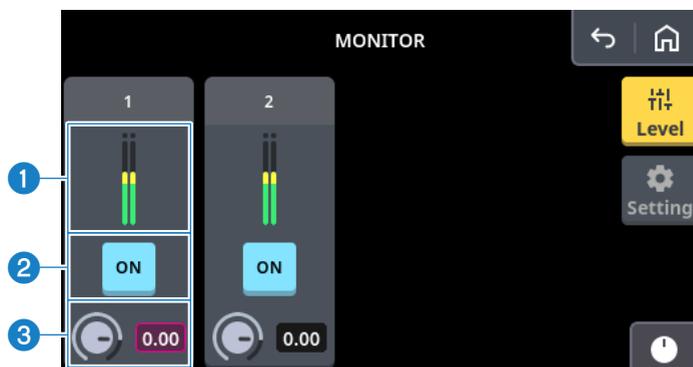


Monitorメニュー

[MONITOR]1、2のソース選択、ボリュームその他の設定をします。

■ Level

モニターの音量操作パラメーターを表示します。



① レベルメーター

モニターの出力レベルを表示します。

② [ON]ボタン

各モニター出力のオン/オフを切り替えます。

③ [レベル調節ノブ/テキストボックス]

[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

■ Setting

モニターのソース選択や、CUE信号の設定をします。



① モニターソース選択ボタン

画面をタッチすると、設定画面が表示されます。表示された画面でモニターソースを選択できます。選択後、画面は自動的に閉じます。

② [CUE Interrupt]ボタン

モニターにCUE信号を割り込ませる機能のオン/オフを切り替えます。オンの状態では、CUEがオンになるとモニターの出力信号がCUE信号に置き換わります。オフの状態では、①モニターソース選択ボタンで選択した信号が常に出力されます。

③ [MONO]ボタン

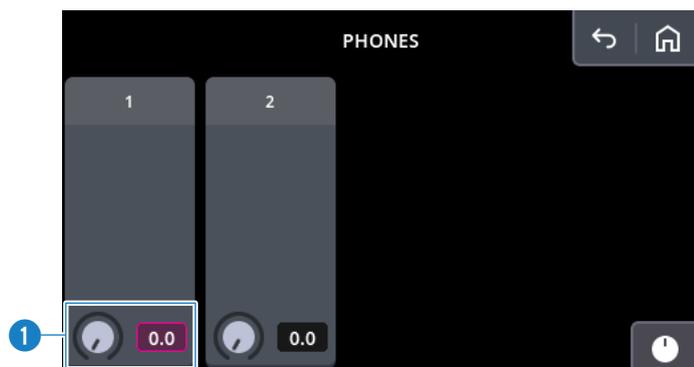
モニターに出力する信号をモノラルに変換する機能のオン/オフを切り替えます。

お知らせ

Monitor1、2の信号はPHONES1、2から出力されます。OUTPUT端子から出力する場合は「Output Patchメニュー」(61ページ)で設定してください。

Phonesメニュー

[PHONES]1、2のボリュームを設定します。



① レベル調節ノブ/テキストボックス

マルチファンクションノブで、[PHONES]端子から出力される信号のレベルを調節します。

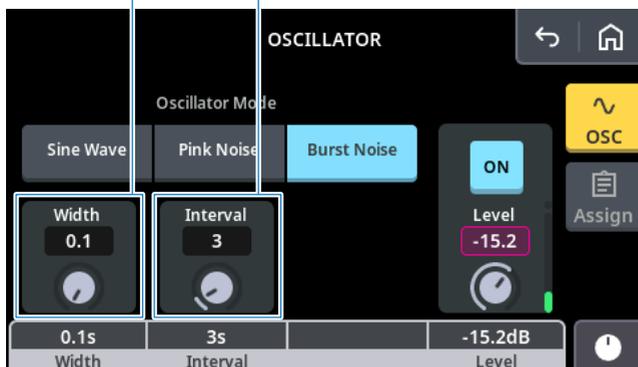
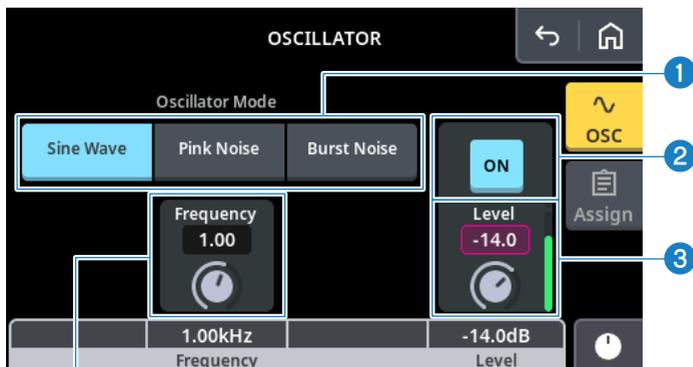
お知らせ

[PHONES]1、2に出力される信号は、[MONITOR]1、2で設定された信号と同じになります。信号のレベルのみ独立して操作できます(69ページ)。

Oscillatorメニュー

■ OSC

オシレーターを設定します。



① [Oscillator Mode]

出力するオシレーターの種類を選択します。

- Sine Wave：正弦波を出力します。
- Pink Noise：ピンクノイズを出力します。
- Burst Noise：短い時間のピンクノイズを周期的に出力します。

② [ON]ボタン

オシレーターのオン/オフを切り替えます。

3 [Level]

オシレーター出力レベルを設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

4 [Frequency]

オシレーターモードが[Sine Wave]の際に表示されます。正弦波の周波数を設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

5 [Width]

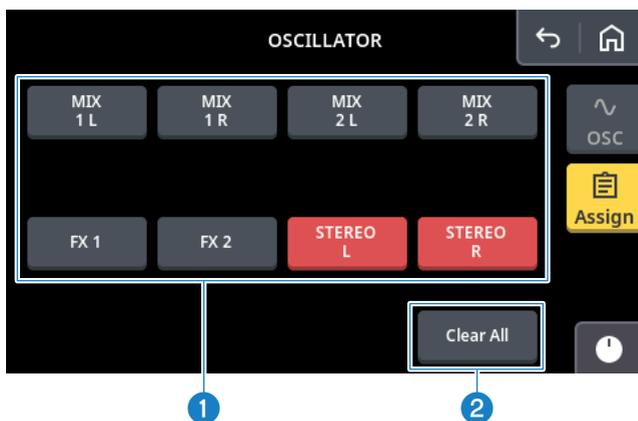
オシレーターモードが[Burst Noise]の際に表示されます。ノイズの長さを設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

6 [Interval]

オシレーターモードが[Burst Noise]の際に表示されます。ノイズの周期を設定します。[TOUCH AND TURN]ノブまたはマルチファンクションノブで操作します。

■ Assign

各バスへのオシレーター出力を設定します。

**1 出力バスアサイン ボタン**

各バスへのオシレーター出力のオン/オフを切り替えます。

お知らせ

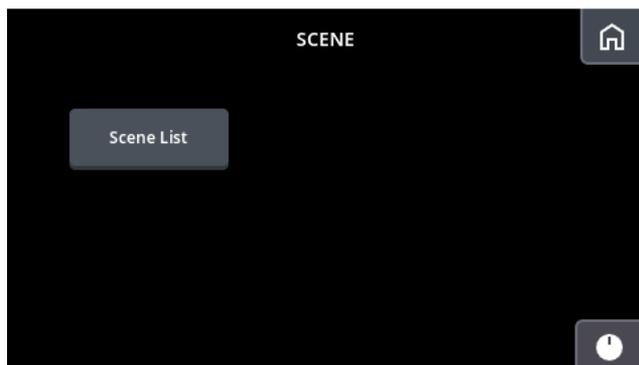
サンプリング周波数が176.4 kHzと192 kHzの場合は、FX 2をアサインすることはできません。

2 [Clear All]ボタン

すべてのバスアサインをオフにします。

SCENE画面

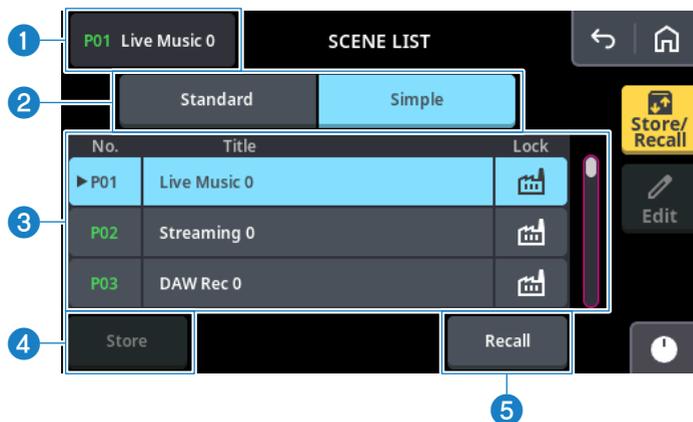
トップメニュー



Scene Listメニュー

■ Store/Recall

ミキサーの設定を保存したシーンを管理する画面です。



① カレントシーン表示

現在選択されているシーン番号と名前を表示します。

お知らせ

選択されているシーン番号と、最後にリコールされたシーン番号が異なる場合には、番号が点滅表示されます。

② リストバンク選択

Scene Listのバンクを切り替えます。Operation Modeごとのシーンがリストに表示されます。

お知らせ

Operation Modeが、Simple モードの場合、StandardバンクのListは操作できません。

③ シーンリスト

保存されているシーンを表示します。

No.

シーン番号「01～63」を表示します。最後にリコールしたシーンには、[▶]が表示されます。

Title

タイトル名を表示します。

Lock

プロテクトの状態を表示します。プロテクト設定がオンのときは、そのシーンが書き込み禁止になります。



: ファクトリーセット



: プロテクト設定がオンのファイル

お知らせ

シーン番号はStandardモードとSimpleモードで共通となり、同じ番号のシーンは登録できません。例えば、Standardモードでシーン番号[03]を登録すると、Simpleモードの[03]はリストに表示されません。

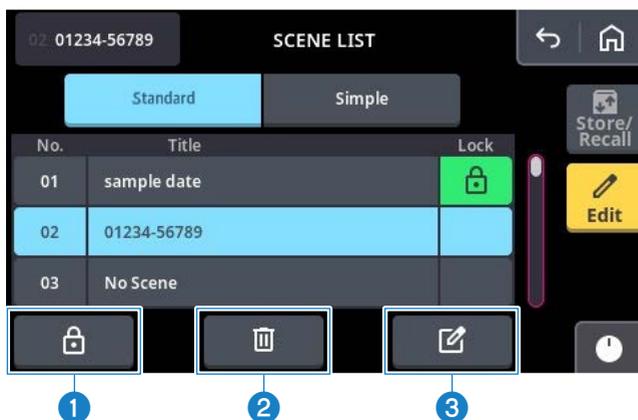
④ [Store]ボタン

リストで選択した番号に現在の設定をストア(保存)します。

⑤ [Recall]ボタン

選択したシーンをリコール(読み込み)します。

■ Edit



① **[Protect]ボタン**

選択したシーンのプロテクト(書き込み禁止)のオン/オフを切り替えます。

② **[Delete]ボタン**

選択したシーンを削除します。

③ **[Title]ボタン**

選択したシーンのタイトル名を編集します。

お知らせ

Standard モードの場合、Simple モードのシーンリストの参照とリコールはできますが、ストア(保存)と編集(Protect, Delete, Edit)はできません。

■ シーンに保存される設定について

シーンには、主にミキサーのチャンネル設定が保存されます。保存されない設定は次のとおりです。

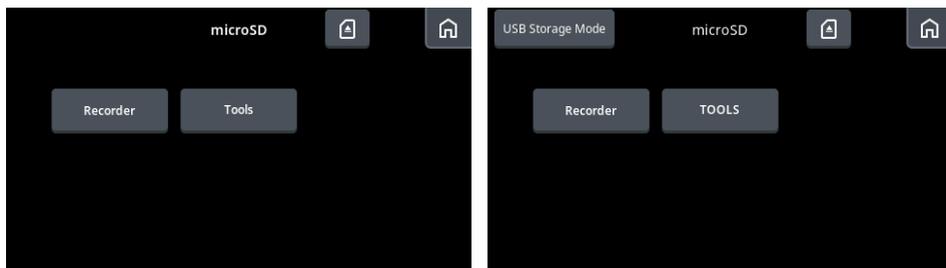
- SETUP画面、MONITOR画面、microSD画面、STREAMINGチャンネルの設定

Simple モードの場合は、必要に応じてOutput PatchやMonitorの設定も保存されます。

microSD画面(URX44V、URX44)

トップメニュー

本製品に挿入しているmicroSDカードの設定をします。



(V1.2以降)

■ 使用できるSDカードについて

URX44V、URX44は、microSDカードに対応しています。microSDカードは、以下の性能を満たすSDXCメモリーカードまたはSDHCメモリーカードをご使用ください。

- ・ バスインターフェイスUHS-II以上、SDR104で動作するもの
- ・ UHSスピードクラス1以上
- ・ スピードクラス10以上

お知らせ

- ・ マルチトラック録音を行うには、書き込みスピードが高速で安定するメディアが必要です。
- ・ SDカードは、使用を繰り返すことで書き込みスピードが低下します。大切な録音を行う場合は、必ず本製品でカードのフォーマットを行ってください。
- ・ 録音するトラック数を制限することで、録音の安定性をより向上させることができます(81ページ)。
- ・ Test機能(87ページ)を使用することで、ご使用になるメディアの性能の目安を知ることができます。

使用するmicroSDカードによっては、正しく録音/再生ができないことがあります。

最新の動作確認情報は次のヤマハウェブサイトをご参照ください。

<https://www.yamaha.com/2/urx/>

■ SDカードの取扱い

- ・ microSDカードは挿入方向や裏表に注意して確実に奥まで差し込んでください。また、無理に差し込まないでください。

- microSDカードを取り出すときは、 をタッチして、表示されるダイアログに従って操作します。「安全にmicroSDカードを取り出すことができます。」と表示されたら、microSDカードを軽く押し込み、カードが少し飛び出したところを引き抜いてください。

■ フォーマット(初期化)

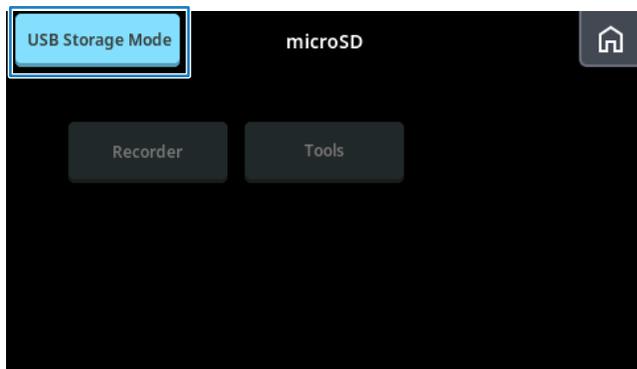
初めてmicroSDカードを使用するときや、サポートされていないファイルシステムでフォーマットされている場合は、フォーマット(初期化)が必要です。

フォーマットを促すダイアログが表示されたら、[OK]をタッチして、フォーマットしてください。フォーマットには時間がかかります。128 GBのmicroSDカードの場合、フォーマット完了まで約3分かかります。

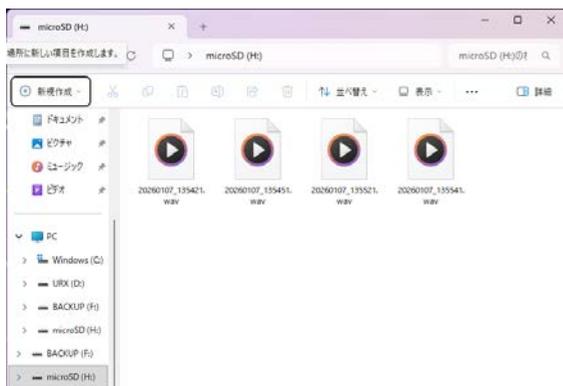
ご注意

- お使いのmicroSDカードによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。
- microSDカードをフォーマット(初期化)すると、カード内のすべてのデータが完全に消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめコンピューターなどにバックアップしてから、フォーマットしてください。

USB Storage Mode ボタン(V1.2以降)



USB Storage Modeボタンをオン(水色)にすると、microSDカードがコンピューターからドライブとして認識され、ファイルの読み書きができるようになります。[USB MAIN]端子に接続されたコンピューターが対応しています。



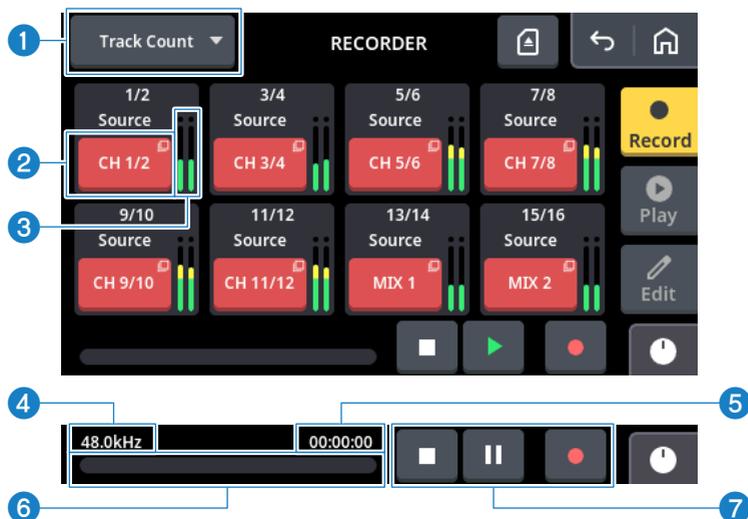
お知らせ

USB Storage Modeをオンにすると、本製品からは他のメニューが選択できなくなります。

RECORDERメニュー

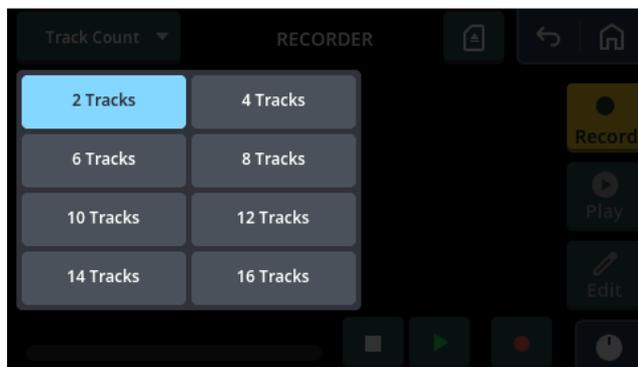
■ Record

microSDカードに録音する録音ソースを設定します。



1 [Track Count]

表示されるプルダウンメニューから、2トラック単位で録音するトラック数を選択します。



2 [Source]選択ボタン

タッチして、表示された画面で録音ソースを選択します。

お知らせ

(URX44V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はSDカードに録音できません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからSDカードに送られる音声は自動的にミュートされます。

③ 録音ソースメーター

録音ソースのレベルを表示します。

④ サンプリング周波数

録音時のサンプリング周波数を表示します(録音中のみ)。

⑤ カウンター

録音時間を表示します。

⑥ プログレスバー

microSDカードの残り容量を表示します。

⑦ 録音操作ボタン



[REC]: 録音を待機、待機解除します。



[Play/Pause]: 録音を開始/一時停止します。



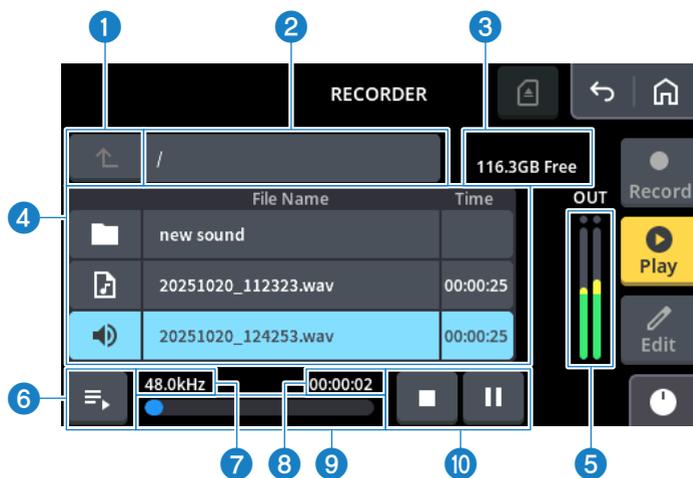
[Stop]: 録音を終了します。

お知らせ

2トラックを超えるマルチトラックで録音したオーディオファイルは、本製品で再生ができません。コンピューターにファイルをコピーして、DAWソフトなどで読み込んでご使用ください。

■ Play

録音したデータや、再生可能なファイルを選択し、再生操作を行います。



- ① **[↑]ボタン**
microSDカード内のフォルダ階層を1階層上に移動します。
- ② **フォルダ名表示**
ルートディレクトリから現在のフォルダまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。
- ③ **ボリューム名/残容量表示**
microSDカード名と残容量を表示します。
- ④ **再生可能ファイルリスト**
選択している階層の再生可能なファイルと、1階層下のフォルダを表示します。
リストアイコン
 : 1階層下のフォルダ
 : 再生可能なオーディオファイル
 : 再生中のオーディオファイル

お知らせ

- フォルダ内のファイル数は128以下にしてください。
- 以下の条件のファイルが再生可能です。
 - ・32ビット、24ビット、16ビットステレオのリニアPCMのWAV形式オーディオファイル
 - ・サンプリング周波数が本製品のサンプリング周波数と同じもの

5 メーター

再生しているオーディオのメーターをステレオ表示します。

6 ボタン

ボタンをタッチすると、再生中のファイルにカーソルを合わせることができます。

7 サンプリング周波数表示

再生中のサンプリング周波数を表示します(再生中のみ)。

8 カウンター

再生時間を表示します。

9 プログレスバー

再生中のファイルの再生時間を視覚的に表示します。

10 再生操作ボタン

再生の開始、一時停止などを行います。



[Stop]

ファイルの再生を終了します。



[Play/Pause]

再生を開始/一時停止します。

お知らせ

再生中に別のファイルを再生したい場合は、一旦[Stop]ボタンで再生を終了させてから、[Play/Pause]ボタンで再生を開始させてください。

■ Edit

microSDカード内のファイル名の編集や、ファイルの削除を行います。



① [↑]ボタン

microSDカード内のフォルダ階層を1階層上に移動します。

② フォルダ名表示

ルートディレクトリから現在のフォルダまでのパスを表示します。表示しきれない場合は、末尾から表示します。

③ ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

④ 再生可能ファイルリスト

選択している階層の再生可能なファイルと、1階層下のフォルダを表示します。

リストアイコン



: 1階層下のフォルダ



: 再生可能なオーディオファイル

4tr~16tr: 本製品で録音したオーディオファイルのトラック数

44.1 kHz、48 kHz: 4Tr、6Tr、8Tr、10Tr、12Tr、14Tr、16Tr

88.2 kHz、96 kHz: 4Tr、6Tr、8Tr

⑤ [🗑️]ボタン

選択したファイルを削除します。

microSD画面(URX44V、URX44) > RECORDERメニュー

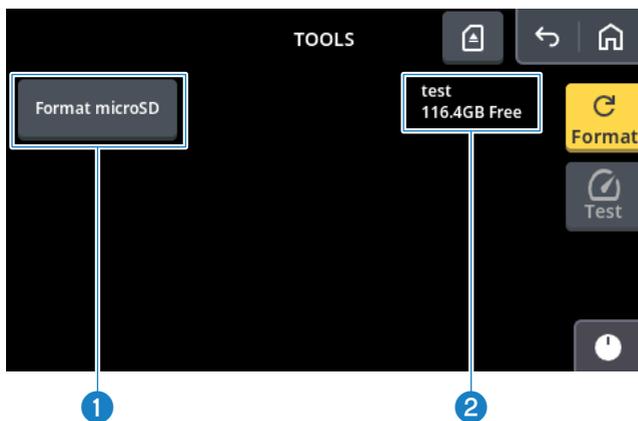
6  ボタン

選択したファイル名を変更します。

TOOLSメニュー

■ Format

microSDカードのフォーマット(初期化)をします。



① [Format microSD]ボタン

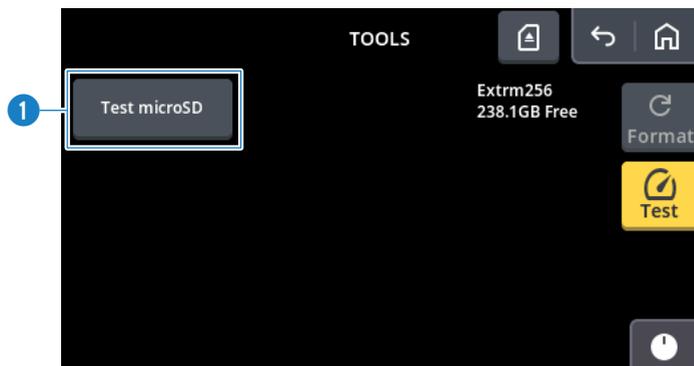
ボリュームラベルを入力し、[OK]ボタンをタッチすると、microSDカードのフォーマットを実行します。

② ボリューム名/残容量表示

microSDカード名と残容量を表示します。

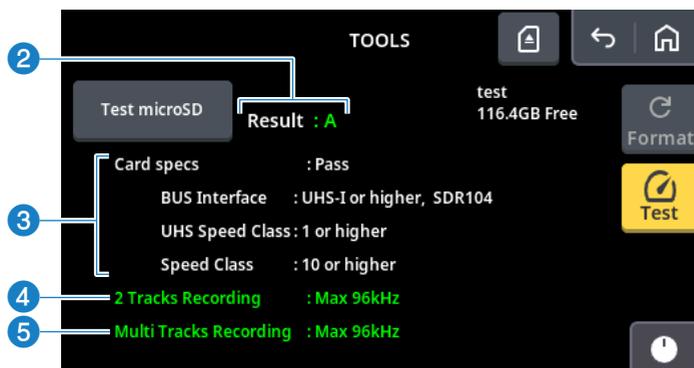
■ Test

microSDカードの書き込み速度の評価をします。



① [Test microSD]ボタン

ボタンをタッチすると、解析が始まり、10秒ほどすると結果が表示されます。



② [Result]

総合評価を[A]、[B]、[C]、[NG]で判定します。

[A]判定(緑色): Multi Tracks、2 Tracksともに録音可能で、Card specsがすべてPassの場合

[B]判定(黄色): 周波数を選べばMulti Tracksの録音が可能で、Card specsがすべてPassの場合

[C]判定(オレンジ色): 周波数を選べば2 Tracksの録音が可能で、Card specsがすべてPassの場合

上記以外は[NG]となります。

3 [Card specs]

カードの仕様として問題があるかないかを[Pass](問題なし)または[Fail](問題あり)で判定します。

インターフェースやスピードクラスの仕様を表示し、仕様を満たしていない場合は赤色で表示されます。

4 [2 Tracks Recording]

書き込みテストを行い、2トラックの録音に対応できる最大のSampling Rateを表示します。

判定結果は、次のとおりに表示されます。

- ・ 緑色：すべての周波数で2トラック録音が可能
- ・ 黄色：現在の本体のサンプリング周波数以上で録音可能
- ・ 赤色：現在の本体のサンプリング周波数より低い周波数でのみ録音可能
- ・ [Fail](赤色)：すべての周波数で録音不可

例：本体設定が48 kHzの場合

[Max 192kHz](緑色)：44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHzで録音可能

[Max 96kHz](黄色)：44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHzで録音可能、176.4 kHz, 192 kHzは不可能

[Max 48kHz](黄色)：44.1 kHz, 48 kHzで録音可能、88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHzは不可能

[Max 44.1kHz](赤色)：44.1 kHzで録音可能、48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHzは不可能

[Fail](赤色)：すべての周波数で録音不可

5 [Multi Tracks Recording]

書き込みテストを行い、マルチトラックの録音に対応できる最大のSampling Rateを表示します。

[Max 96kHz]と緑色で表示されている場合は、48 kHz/16トラックと96 kHz/8トラックの録音ができる書き込み速度となります。条件を満たしていない場合は[Fail]と赤文字で表示されます。

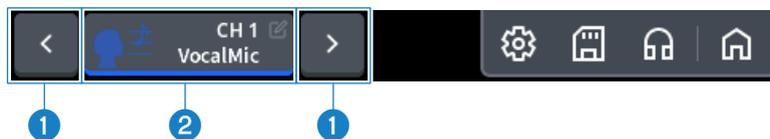
チャンネルビュー

画面構成



- 各チャンネルに応じて、メインエリアの画面表示が変わります。
- メインエリアには、選択したチャンネルのパラメーター概要を表示します。表示項目は、選択したチャンネルによって変わります。
- メインエリアの各オブジェクトをタッチすると、該当パラメーターが操作対象になります。さらにタッチすると、該当機能の詳細画面に移動します。
- 各機能の詳細については、「チャンネル専用画面」(100ページ)をご参照ください。

ツールバー



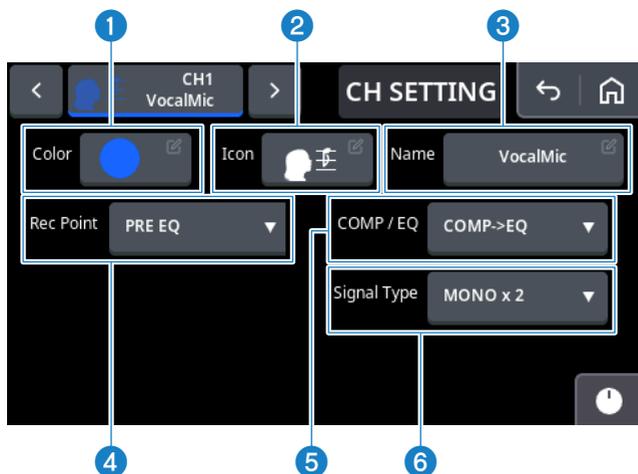
① チャンネル選択ボタン

[<]をタッチすると1つ前のチャンネル、[>]をタッチすると1つ後ろのチャンネルに切り替わります。チャンネル選択はCH1からSTREAMING、またはSTREAMINGからCH1へループします。

② チャンネル設定画面表示ボタン

ボタンをタッチすると、チャンネル設定画面が表示されます。チャンネル設定画面については、次の項をご参照ください。

チャンネル設定画面



お知らせ

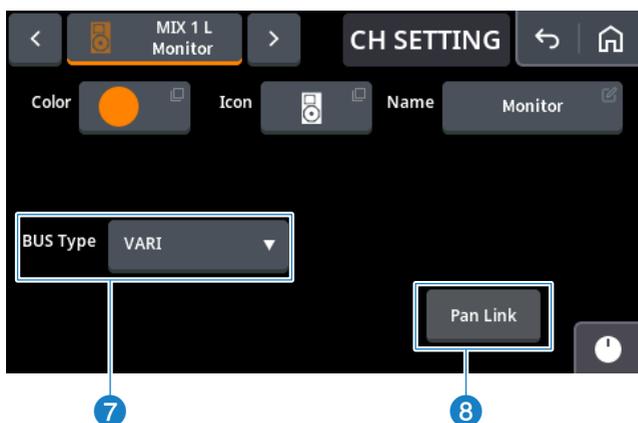
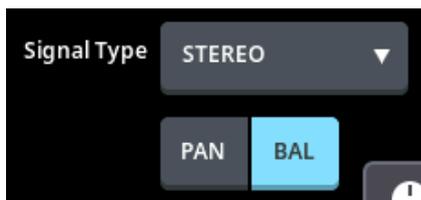
表示される項目はチャンネルごとに異なります。

- 1 [Color]**
チャンネルカラーを選択します。
- 2 [Icon]**
チャンネルアイコンを選択します。アイコンリストをスクロールして選択してください。
- 3 [Name]**
チャンネル名を入力します。ボタンをタッチすると、テキスト入力画面が表示されます。
- 4 [Rec Point]**
チャンネルのダイレクト録音信号の取り出しポイントを選択できます。
- 5 [COMP/EQ]**
チャンネルのCOMP/EQをCOMP->EQとして使用するか、SSMCS(Sweet Spot Morphing Channel Strip)として使用するか選択できます。
- 6 [Signal Type]**
隣り合った2つのチャンネル(CH1/2、CH3/4など)の動作モードを選択できます。ステレオリンク(STEREO)または独立した2チャンネル(MONO×2)から選択できます。

お知らせ

(V1.2以降)

MONO INチャンネルでSTEREOを選択すると、PANかBAL(バランス)を選択できるボタンが表示されます。それぞれのチャンネルをPANとして使用するか、またはL/Rバランスとして使用するかの選択ができます。



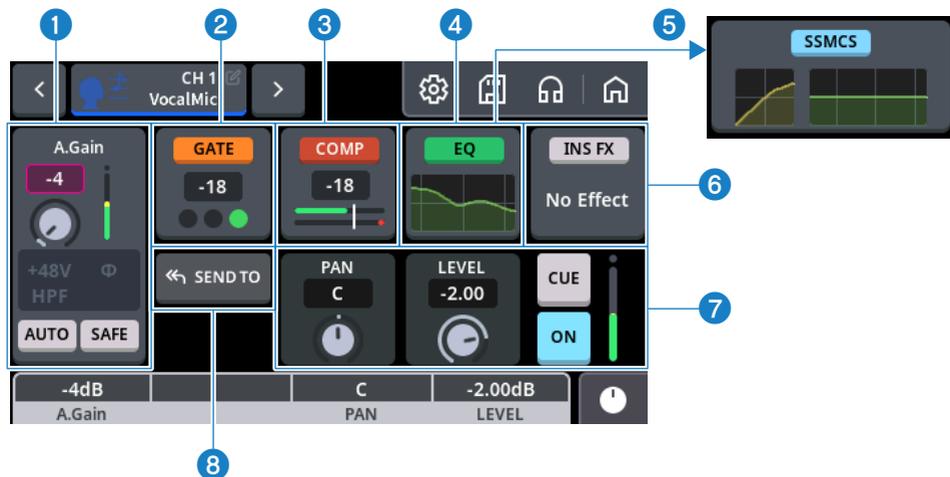
7 [BUS Type]

MIX1、MIX2のバスタイプを選択できます。バスタイプは、VARI(センドレベルが可変)またはFIXED(センドレベルが固定)から選択できます。

8 [Pan Link]

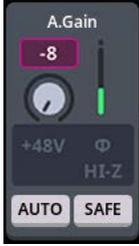
センド元のチャンネルからのセンドPANの設定をチャンネルのPANにリンクする機能を設定できます。この機能は、バスタイプがVARIの場合に有効です。ボタンをタッチすると、PAN設定が切り替わります。

メインエリア



① インプットエリア

インプットゲイン、インプットメーター、[+48V]インジケータ、[φ]インジケータ、[HPF]インジケータ、[AUTO]ボタン、[SAFE]ボタンなどで構成されています。

MONO INチャンネル		
 <p>A.Gain -13 +48V <input type="checkbox"/> HPF AUTO SAFE</p>	 <p>A.Gain +3 +48V <input type="checkbox"/> HPF HI-Z AUTO SAFE</p>	 <p>D.Gain 0 HPF <input type="checkbox"/></p>
<p>MIC/LINE INPUT端子が入力ソースとして選択されている場合</p>	<p>MIC/LINE /HI-Z INPUT端子が入力ソースとして選択されている場合</p>	<p>左記以外が入力ソースとして選択されている場合</p>
ST INチャンネル		
 <p>A.Gain +5 +48V <input type="checkbox"/> AUTO SAFE</p>	 <p>A.Gain -8 +48V <input type="checkbox"/> HI-Z AUTO SAFE</p>	 <p>D.Gain -2 <input type="checkbox"/></p>
<p>MIC/LINE INPUT端子が入力ソースとして選択されている場合</p>	<p>MIC/LINE /HI-Z INPUT端子が入力ソースとして選択されている場合</p>	<p>左記以外が入力ソースとして選択されている場合</p>

■ インジケータ・ボタンの説明

選択したチャンネルによって、表示項目が異なります。ここでは一部のみを説明しています。他のインジケータ・ボタンの説明は「チャンネル専用画面」の「INPUT画面」(101ページ)をご参照ください。

- AUTO：オートゲインボタンです。オフの状態からボタンをタッチするとオンになり、オートゲインの設定を開始します。適正なインプットゲインが決定すると、アナログゲインの設定値に反映され、ボタンは自動でオフになります。
- SAFE：クリップセーフボタンです。オンにすると、過大入力時に自動でゲインを下げてクリップを回避します。自動でゲインが下がっているときボタンの色は水色からオレンジに変わります。

2 GATEエリア(MONO INチャンネルのみ)



[GATE]ボタンをタッチしてゲートのオン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブでスレッシュホールドを設定できます。エリア内をタッチすると[GATE]画面が開きます。

下部のインジケータはGATEの開閉状態を表示します。

   GATEが閉じ切っている状態 (ゲインリダクションがRANGE以下)

  GATEが開閉途中の状態 (ゲインリダクションがRANGE以上0 dB未満)

  GATEが開ききっている状態 (ゲインリダクションが0 dB)

  GATEがオフの状態

3 COMPエリア(MONO INチャンネルのみ)

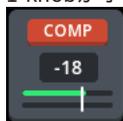
[COMP]ボタンをタッチしてコンプレッサーのオン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブで操作するパラメーターは1-knobモードがオンかオフかで異なります。オフのときはスレッシュホールドを設定できます。オンのときは効果の深さを0~100%で設定できます。エリア内をタッチすると[COMP]画面が開きます。下部のインジケータは、上が入力レベルを、下がゲインリダクションを表示します。

お知らせ

1-knob機能について

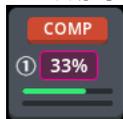
1-knobをオンにすると、複数のパラメーターを[TOUCH AND TURN]ノブで簡単に操作できます。1-knobがオンの場合、各パラメーターを個別に操作できません。1-knobのオン/オフはチャンネル専用画面で設定できます。

- 1-knobがオフのとき



[COMP]ボタン以外の部分をタッチするとピンク色枠でフォーカスされます。[TOUCH AND TURN]ノブを操作してスレッシュホールドの設定をします。

- 1-knobがオンのとき



[TOUCH AND TURN]ノブを操作して値の設定をします。エリア内をタッチすると[COMP]画面が表示されます。

4 EQエリア

[EQ]ボタンをタッチしてEQのオン/オフを切り替えます。1-knobモードがオンのときは[TOUCH AND TURN]ノブで効果の深さを0~100%で設定できます。下部のグラフはEQの周波数特性を表示します。エリア内をタッチすると[EQ]画面が開きます。



1-knobモードがオフのとき



1-knobモードがオンのとき

5 SSMCSエリア(MONO INチャンネルのみ)

[COMP/EQ] TYPEがSSMCSのときに、COMPエリアとEQエリアとの差し替えて表示されます。[SSMCS]ボタンをタッチしてSSMCSのオン/オフを切り替えます。エリア内をタッチすると[SSMCS]画面が表示されます。

お知らせ

- SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)は、ヤマハのUSBオーディオインターフェースに搭載されている機能で、EQとコンプレッサーを1つのノブで最適なバランスに調整できます。
- [COMP/EQ] TYPEは「チャンネル設定画面」(92ページ)で変更できます。

6 INS FXエリア

[INS FX]ボタンをタッチしてオン/オフを切り替えます。エフェクトがインサートされていない場合は[No Effect]と表示されます。エリア内をタッチすると[INS FX]画面が表示されます。

7 PAN/LEVELエリア

チャンネルのON、CUE、PANの設定、LEVELメーターを表示します。



[PAN]ノブ/[BALANCE]ノブ

信号の定位を表示します。

[TOUCH AND TURN]ノブまたは、マルチファンクションノブでPAN/BALANCEを設定できます。[C]はセンターノミナルです。

お知らせ

(V1.2以降)

Signal Type (92ページ)でSTEREOを選択し、表示されるPAN/BALボタンで[BAL]を選択すると、MONO INチャンネルにBALANCEノブを表示できます。

[LEVEL]ノブ

チャンネルのレベルを表示します。[TOUCH AND TURN]ノブまたは、マルチファンクションノブで操作できます。

[CUE]ボタン

チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。CUEをオンにしたときに点灯します。

[ON]ボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときに点灯します。

LEVELメーター

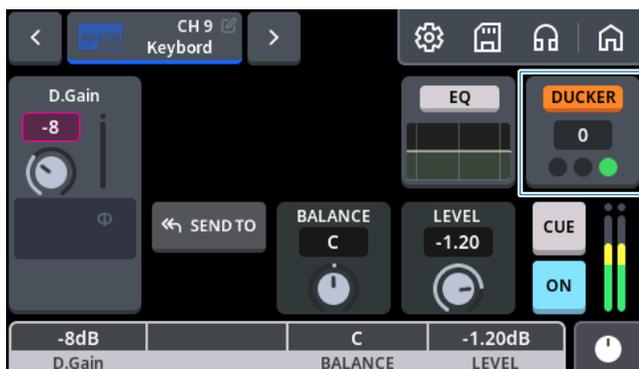
-60 dB～0 dBまでのレベルインジケータです。

ステレオのチャンネル、ステレオリンクを組んだチャンネルの場合は、ステレオメーターで表示されます。

8 SEND TOボタン

ボタンにタッチすると、[SEND TO]画面に移動します。

9 DUCKERエリア(ST INチャンネルのみ)



[DUCKER]ボタンをタッチして、オン/オフを切り替えます。[TOUCH AND TURN]ノブでスレッシュホールドを設定できます。

下部のインジケータは、DUCKERの動作状態を表示しています。

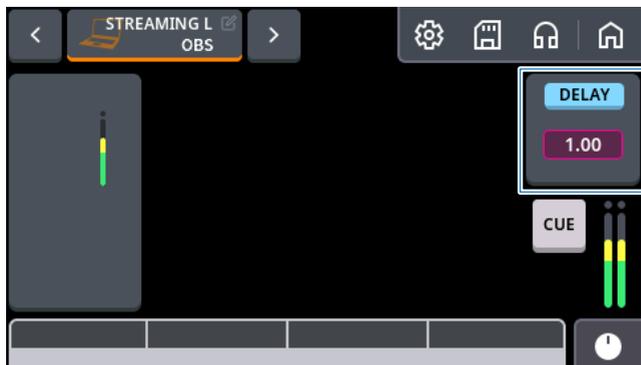
 DUCKERが最大減衰している状態 (ゲインリダクションがRANGE以下)

 DUCKERが減衰中の状態 (ゲインリダクションがRANGE以上0 dB未満)

 DUCKERが動作していない状態 (ゲインリダクションが0 dB)

 DUCKERがオフの状態

⑩ DELAYエリア(STREAMINGチャンネルのみ)



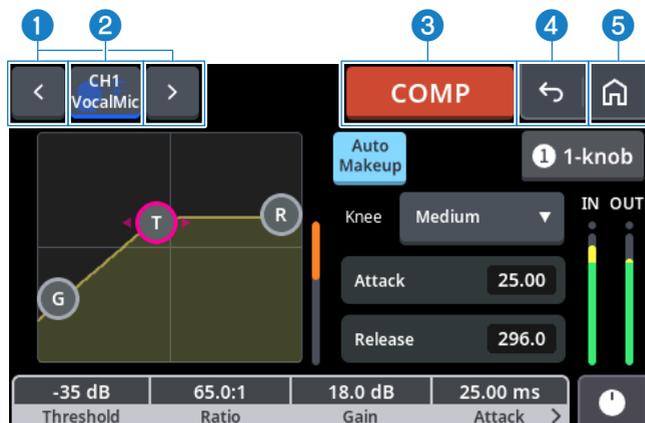
[DELAY]ボタンをタッチして、オン/オフを切り替えます。

[TOUCH AND TURN]ノブでディレイタイムを設定できます。エリア内をタッチすると[DELAY]画面が表示されます。

チャンネル専用画面

チャンネル設定画面

チャンネルの各モジュールの詳細設定をします。



各画面共通ボタン

① チャンネル選択ボタン

[<]をタッチすると1つ前のチャンネル、[>]をタッチすると1つ後ろのチャンネルに切り替わります。

② チャンネル名前表示欄

選択しているチャンネル名を表示します。

③ モジュールオン/オフボタン

モジュール名を表示します。また、以下の機能を選択している場合には、モジュールのオン/オフを切り替えます。クリックしてオフ(グレー表示)にすると、機能が無効になります。

GATE、COMP、EQ、SSMCS、INS FX、DUCKER、DELAY

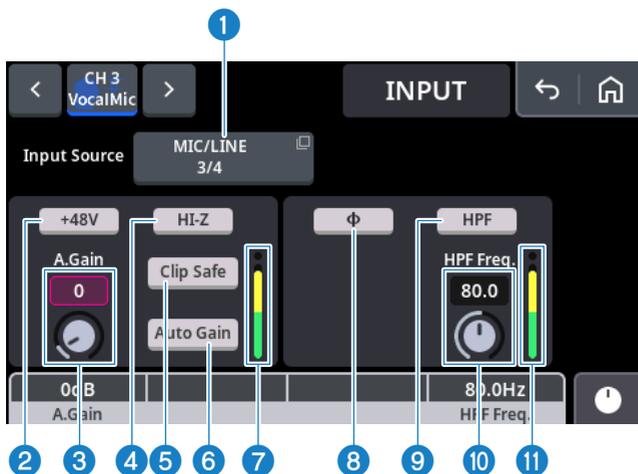
④ ボタン

チャンネルビュー表示に戻ります。

⑤ ボタン

HOME画面を表示します。

INPUT画面



1 [Input Source]選択ボタン

入力ソースの選択メニューがポップアップします。入力ソースを選択すると、入力レベルが選択できるようになります。モノラル入力チャンネルの場合、隣り合った2チャンネルをまとめて設定します。



URX44V、URX44の場合（HDMIはURX44Vのみ）

- ・ **[All Input]ボタン**: 表示されるダイアログで「OK」を選択すると、Ch 1/2～Ch 11/12の入力ソースが下表のように設定されます。

URX44V、URX44

Ch 1/2	Ch 3/4	Ch 5/6
MIC/LINE 1/2	MIC/LINE 3/4	AUX IN
Ch 7/8	Ch 9/10	Ch 11/12
更新なし	更新なし	更新なし

URX22

Ch 1/2	Ch 3/4	Ch 5/6
MIC/LINE 1/2	AUX IN	更新なし
Ch 7/8	Ch 9/10	-
更新なし	更新なし	-

お知らせ

- ・ [HEADSET]端子にマイクを接続している場合、リアパネルの[MIC/LINE INPUT 1]端子からの音声は入力されません。
- ・ [HEADSET]端子にヘッドホンを接続している場合、[PHONES 1]からの音声はミュートされます。
- ・ **[All USB DAW]ボタン**: 表示されるダイアログで「OK」を選択すると、Ch 1/2～Ch 11/12の入力ソースが下表のように設定されます。

URX44V、URX44 (URX22はCH 1/2～CH 9/10)

Ch 1/2	Ch 3/4	Ch 5/6
USB DAW 1/2	USB DAW 3/4	USB DAW 5/6
Ch 7/8	Ch 9/10	Ch 11/12
USB DAW 7/8	USB DAW 9/10	USB DAW 11/12

お知らせ

(URX44V)

著作権保護のため、HDCP保護された音声はUSBに出力したりSDカードに録音したりできません。いずれかのインプットチャンネルの入力ソースにHDMIを選択すると、すべてのアウトプットチャンネルにHDMIの音声を送られます。HDMI入力信号がHDCP保護されている場合、これらのチャンネルからUSBやSDカードに送られる音声は自動的にミュートされます。

② [+48V]ボタン

ファンタム電源(+48V)のオン/オフを切り替えます。MIC/LINEインプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。ファンタム電源とHI-Zは同時にオンにできません。

ファンタム電源に関するご注意

- ・ 本製品や外部機器の故障、ノイズを防ぐために、次の注意事項をお守りください。
- ・ ファンタム電源が不要な場合はオフにする。
- ・ [INPUT]端子に、ファンタム電源非対応の機器を接続するときは、オフにする。
- ・ オンにしたまま、[INPUT]端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ・ オン/オフは、出力音量を最小にした状態で行う。

3 [A.Gain]ノブ

アナログゲインを設定します。MIC/LINEインプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

お知らせ

MIC/LINEインプット端子以外が選択されている場合、[D.Gain]ノブが表示され、デジタルゲインが設定できます。

4 [HI-Z]ボタン

URX44V、URX44の場合は[MIC/LINE INPUT 3、4]端子、URX22の場合は[MIC/LINE INPUT 2]端子が入力ソースとして選択されているときに表示されます。

5 [Clip Safe]ボタン

オンにすると、過大入力時に自動でゲインを下げてクリップを回避します。自動でゲインが下がっているときは、ボタンの色が水色からオレンジに変わります。MIC/LINEインプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

6 [Auto Gain]ボタン

オンにすると、オートゲインの測定が始まります。適正なインプットゲインが決定すると、アナログゲインの設定値に反映され、ボタンは自動でオフになります。MIC/LINEインプットが入力ソースとして選択されているときに表示されます。

お知らせ

オートゲインの測定中は、歌声や音声を入力してください。入力音声小さすぎる場合はエラーになり、元のゲイン値に戻ります。

7 インプットメーター

チャンネルへの入力直後のレベルを表示します。

8 [φ]ボタン

φ(フェーズ)のオン/オフを切り替えます(オンのときに逆相/オフのときに正相)。

9 [HPF]ボタン

[HPF](ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。

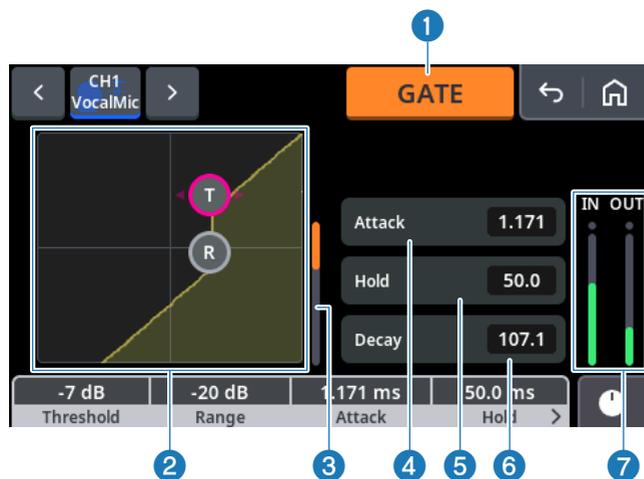
10 [HPF Freq.]ノブ

[HPF Freq.] (HPF周波数) を設定します。

11 アウトプットメーター

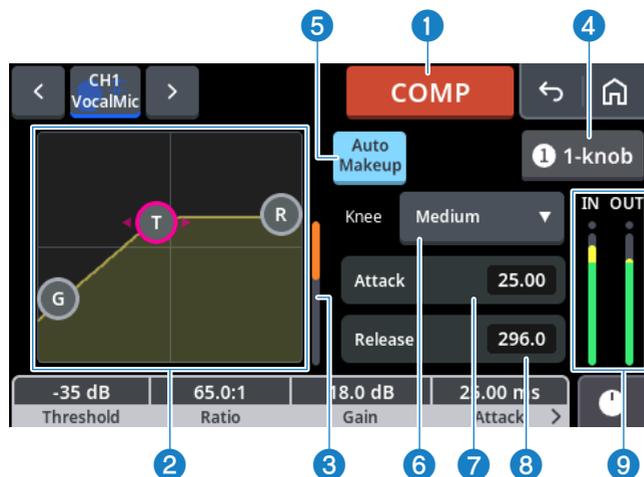
φやHPFを通過した後のレベルを表示します。

GATE画面



- 1 [GATE]ボタン**
ゲートのオン/オフを切り替えます。
- 2 GATEグラフ**
ゲートの入出力特性グラフを視覚的に表示します。グラフを直接操作して、T(スレッシュولد)で効果がかかるしきい値のレベル、R(レンジ)で効果がかかっているときの減衰量を設定します。
- 3 GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- 4 [Attack]テキストボックス**
アタックタイムを設定します。
- 5 [Hold]テキストボックス**
ホールドタイムを設定します。
- 6 [Decay]テキストボックス**
ディケイタイムを設定します。
- 7 入出力メーター**
ゲートへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP画面



1 [COMP]ボタン

コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。

2 COMPグラフ

コンプレッサーの入出力特性グラフを視覚的に表示します。グラフを直接操作して、T(スレッシュヨルド)、R(レシオ)、G(ゲイン)の値を設定します。

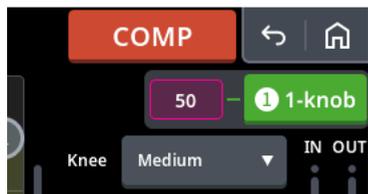
3 GR(ゲインリダクション)メーター

コンプレッサーのゲインリダクション量を表示します。

4 [1-knob]ボタン

1-knob機能のオン/オフを切り替えます。

1-knobがオンの場合



1-knob COMPの仕組み

- 1-knobがオンの場合は、コンプレッサーのかかり具合をひとつのノブで簡単に操作できます。
- 1-knobレベル値を大きくするにしたがって、コンプレッションが強くなり、それに応じてレベルが上がります。単にフェーダーやゲインで音量を上げるだけではレベルオーバーが起きてしまうような音量差のある音の粒を揃えて、音が前面に出てくるような効果が得られます。
- スレッシュホールド、レシオ、ゲインのバランスを自動的にコントロールすることで、難しいコンプレッサーの設定を気にすることなく操作できます。

5 [Auto Makeup]ボタン

Auto Makeup機能のオン/オフを切り替えます。オンにすると、スレッシュホールドとレシオの設定値から適切なゲイン値が自動計算されます。計算されたゲイン値は自動的に適用されます。1-knobがオンのときは操作できません。

6 [Knee]モード選択

ニーパラメーター(スレッシュホールドレベル前後の音量変化)を切り替えます。1-knobがオンのときは操作できません。

7 [Attack]テキストボックス

アタックタイム(入力信号がスレッシュホールドレベルを越えてから圧縮が始まるまでの早さ)を調節します。

8 [Release]テキストボックス

リリースタイム(入力信号がスレッシュホールドレベル以下に下がってから信号の圧縮が解除されるまでの時間)を調節します。

9 入出力メーター

コンプレッサーへの入力・出力信号レベルを表示します。

EQ画面



1 [EQ]ボタン

EQのオン/オフを切り替えます。

2 バンド名表示

選択中のバンド名が表示されます。タッチしてバンドのオン/オフを切り替えます。1-knobがオンのときには操作できません。

3 フィルター選択ボタン

フィルタータイプを選択します。

1-knobがオンのときには操作できません。

4 [1-knob]ボタン

1-knob機能のオン/オフを切り替えます。

1-knobがオンの場合



1-knob EQの仕組み

- 1-knobがオンの場合は、複数のパラメーターを同時にひとつのノブで操作できます。これにより、複雑なEQの調節を簡単に操作できます。
- 1-knobをオフにして、EQ設定を作成した後、1-knobのタイプをIntensityに切り替えると、そのEQ設定は50%(中間値)として登録されます。この状態では、0%(EQがかかっていない状態)～100%(中間値よりも強調)の範囲で、[TOUCH AND TURN]ノブを使ってEQ設定を調整できます。あらかじめ作ったEQ設定の微調整を、1つのノブで操作できるので便利です。
- 1-knobのタイプをVocalやLoudnessに変更すると、あらかじめ用意されたEQカーブで0% (EQがかかっていない状態)～100% (EQのかかり具合が最大の状態)の間で操作できます。

5 EQグラフ

EQグラフをドラッグしてゲイン/周波数特性を操作します。1-knobがオンのときにはグラフは操作できません。

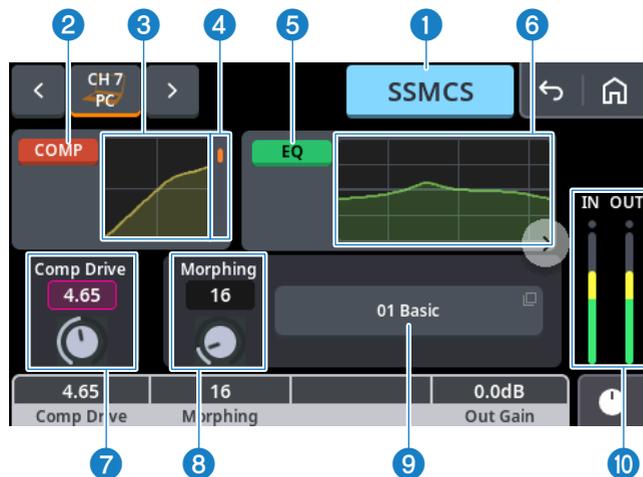
6 入出力メーター

EQへの入力・出力信号レベルを表示します。

SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面

メイン画面

Sweet Spot Morphing Channel Stripとは、ヤマハが開発したSweet Spot Morphing Technologyを採用したChannel Strip エフェクトです。コンプレッサーやイコライザーなど、専門的な知識がないと最適な効果を得るのが難しいエフェクトに対して、1つのノブ操作で、EQとコンプレッサーを最適なバランスに調整できます。



- 1 **[SSMCS]ボタン**
SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)のオン/オフを切り替えます。
- 2 **[COMP]ボタン**
コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。
- 3 **[COMP]グラフ**
コンプレッサーの入出力特性グラフを直接操作して表示します。
- 4 **[GR](ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- 5 **[EQ]ボタン**
EQのオン/オフを切り替えます。
- 6 **[EQ]グラフ**
EQの周波数特性のグラフを表示します。

7 **[Comp Drive]ノブ**

Channel Strip のコンプレッサーのかかり具合を設定します。

8 **[Morphing]ノブ**

Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。このノブを回すと、ノブのまわりの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を同時に動かすことができます。2点の間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

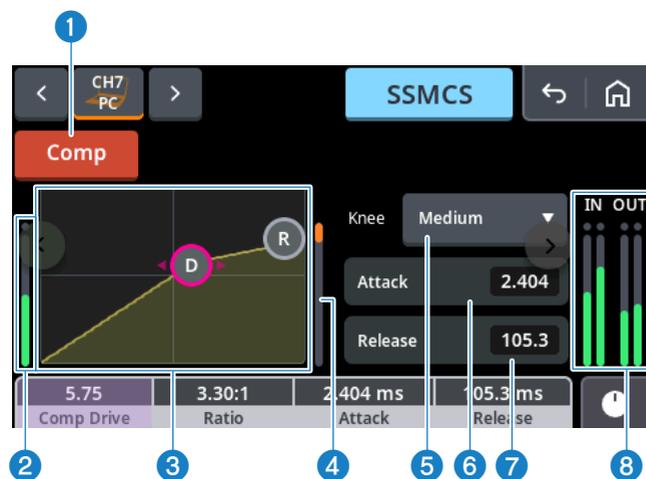
9 **[Sweet Spot Data]ボタン**

表示されるリストからSweet Spot Dataを選択します。

10 **入出力メーター**

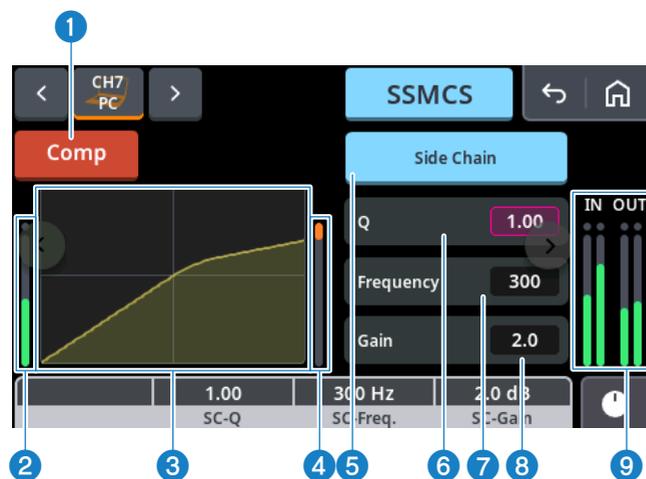
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP画面



- 1 [Comp]ボタン**
コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。
- 2 [SC]メーター**
サイドチェーンのメーターを表示します。
- 3 [Comp]グラフ**
コンプレッサーの入出力特性グラフを直接操作して設定します。
- 4 [GR]メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- 5 [Knee]モード選択**
ニーパラメーター (スレッシュホールドレベル前後の音量変化)を切り替えます。
- 6 [Attack]テキストボックス**
アタックタイムを設定します。
- 7 [Release]テキストボックス**
リリースタイムを設定します。
- 8 入出力メーター**
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

COMP Side Chain画面

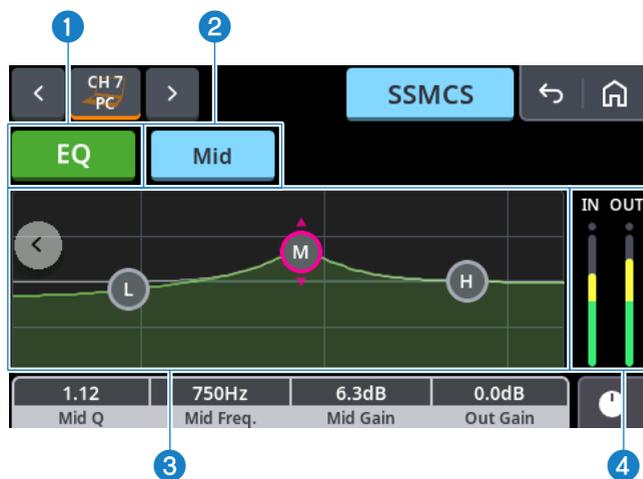


- ① **[Comp]ボタン**
コンプレッサーのオン/オフを切り替えます。
- ② **[SC]メーター**
サイドチェーンのメーターを表示します。
- ③ **[COMP]グラフ**
コンプレッサーの入出力特性グラフを表示します。
- ④ **[GR](ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- ⑤ **[Side Chain]ボタン**
サイドチェーンフィルターのオン/オフを切り替えます。
- ⑥ **[Q]テキストボックス**
Qの値を設定します。
- ⑦ **[Frequency]テキストボックス**
周波数を設定します。
- ⑧ **[Gain]テキストボックス**
ゲインを設定します。

9 入出力メーター

SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

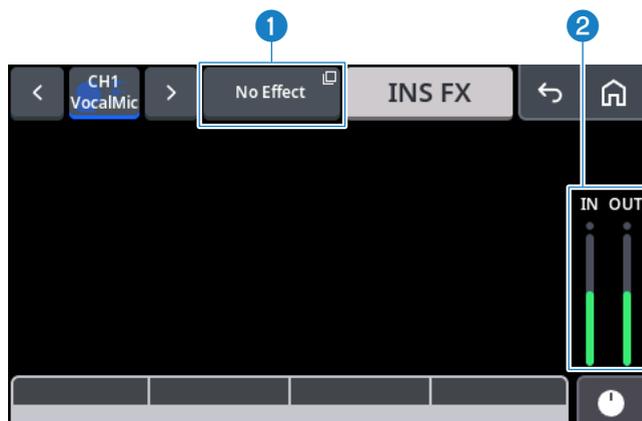
EQ画面



- 1 [EQ]ボタン**
EQのオン/オフを切り替えます。
- 2 バンド名表示**
選択中のバンド名が表示されます。タッチしてバンドのオン/オフを切り替えます。
- 3 [EQ]グラフ**
EQグラフを直接操作して各バンドを設定します。
- 4 入出力メーター**
SSMCSへの入力・出力信号レベルを表示します。

INS FX画面

インサートされたエフェクトの設定をします。



① Effectメニューポップアップボタン

エフェクトタイプを選択する画面が表示されます。選択したチャンネルによって、表示されるエフェクトは異なります。エフェクト選択後は、アサインしたエフェクト名を表示します。

② 入出力メーター

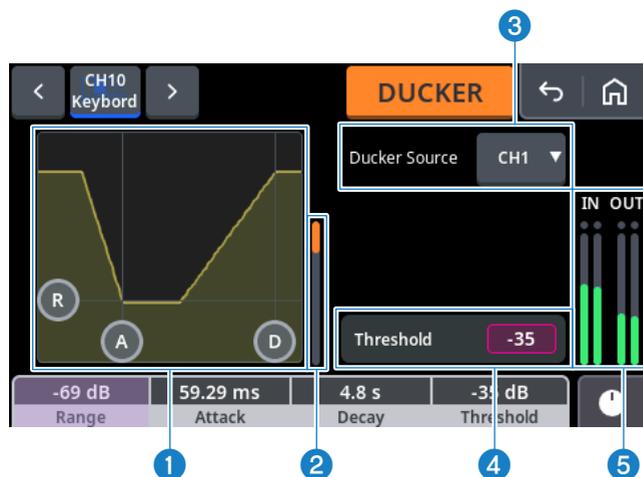
INS FXへの入力・出力信号レベルを表示します。

お知らせ

各エフェクトのパラメーター設定の詳細については、「エフェクトリファレンスガイド」(下記 URL)、エフェクトの制限については「エフェクトリスト」(189ページ)をご参照ください。

- https://manual.yamaha.com/audio/music_audio_production/effect_rg/

DUCKER画面



① [DUCKER]グラフ

ダッカーの設定を視覚的に表示します。グラフを直接操作して、R(レンジ)で効果がかかっているときの減衰量、A(アタックタイム)でしきい値を超えてから減衰しきるまでの時間、D(ディケイタイム)でしきい値以下になってから元の音量に戻るまでの時間を設定します。

② [GR](ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

③ [Ducker Source]選択ボタン

ダッカーのソースを選択します。

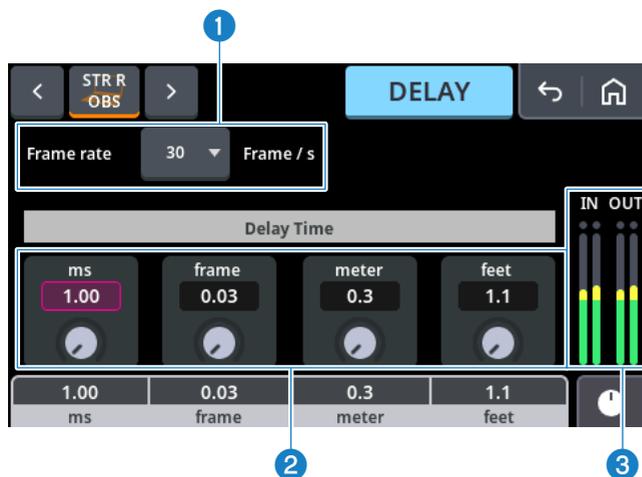
④ [Threshold]テキストボックス

スレッシュヨルドを設定します。

⑤ 入出力メーター

ダッカーへの入力・出力信号レベルを表示します。

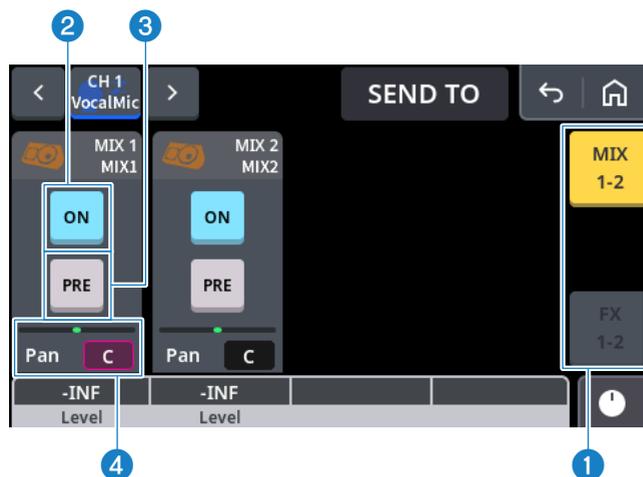
DELAY画面



- ① **[Frame rate]選択ボタン**
フレームレートを設定します。
- ② **[Delay Time]ノブ**
各単位のディレイタイムを設定します。
- ③ **入出力メーター**
ディレイへの入力・出力信号レベルを表示します。

SEND TO画面

MIX SEND、FX SENDの設定をします。



① センド切り替えボタン(サイドメニュー)

画面内に表示するセンド先のチャンネル(バス)を切り替えます。

② [ON]ボタン

センドのオン/オフを切り替えます。

③ [PRE]ボタン

センド先のチャンネルへのセンドポイントをプリフェーダーにします。

④ [Pan]スライダー

センドのパンを設定します。バスタイプがVARIのMIXバスのときに表示/操作できます。

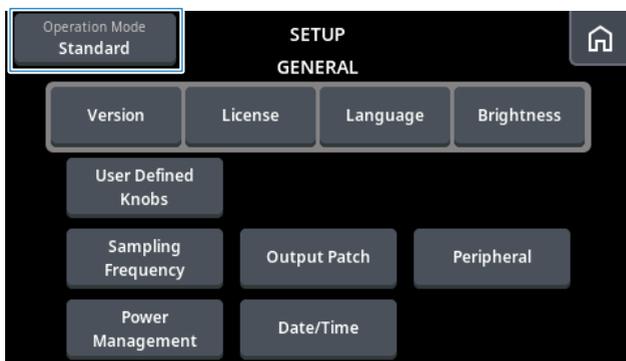
MIXチャンネルの場合は、MIXチャンネルからステレオバスへのセンドのオン/オフを設定する[ON]ボタンが表示されます。センドポイントはポストフェーダー固定です。



Simpleモード操作ガイド

Simpleモードの入り方

- 1 [SETUP]画面を開き、画面左上の[Operation Mode]をタッチします。



- 2 [Simple Mode]を選択して、[次へ]をタッチします。



3 表示された画面から、ミキサーの設定方法を選択します。



プリセット：ユースケースに合わせたデフォルト設定をすぐに呼び出して使用できます。複雑な設定を行わず、簡単にスタートしたい場合に便利です。

セットアップアシスタント：画面の案内に従って、入力機器、ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。初めてミキサーを使う方におすすめです。

シーン：過去に保存した設定を呼び出して使用できます。

お知らせ

プリセットやユースケースの概要説明については、123ページをご覧ください。

4 画面に表示される案内に従って設定を進めます。

各画面では、必要な項目を選択または入力し、[次へ]をタッチすると次の手順に進みます。設定が完了すると、SimpleモードのHOME(Overview)画面が表示されます。

■ クイックツアー

Simpleモードでは、ミキサー画面を使うための簡単な解説(クイックツアー)が表示されま す。クイックツアーは「セットアップアシスタント」または「プリセット」を選択時に毎回表示されます。



お知らせ

「シーン」選択時には表示されません。

クイックツアーの最後で[今後表示しない]を選択すると、クイックツアーが次回以降表示されなくなります。クイックツアーを再表示する場合は、メンテナンス画面で初期化が必要です(173ページ)。



プリセット、ユースケースの選択

選択メニュー画面

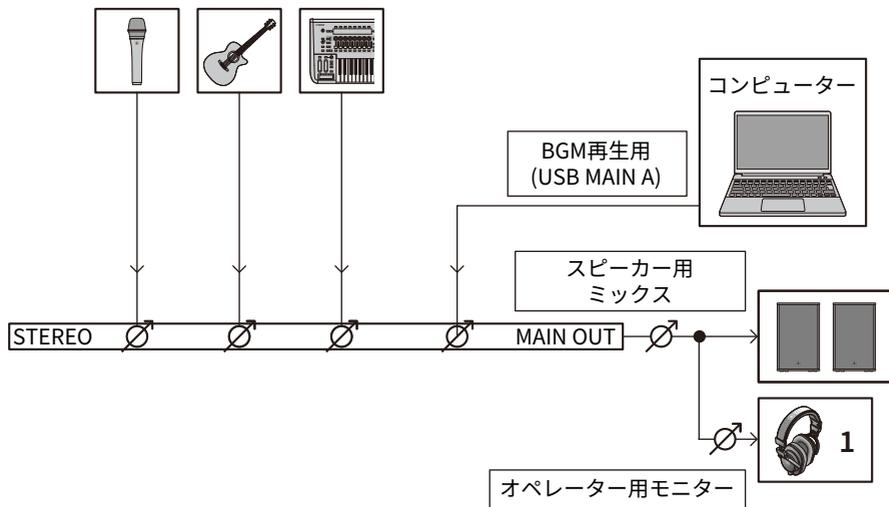
「設定の開始」で「プリセット」または「セットアップアシスタント」を選択すると、プリセットまたはユースケースの選択メニューが表示されます。各メニューの説明は次の項をご参照ください。



「ライブ音楽、イベント」の概要

店舗などでの小さな音楽ライブ、小中規模のステージで行う音楽ライブ、会場や広場でのイベントなどを想定した設定です。シンプルに音量バランスを調節できます。

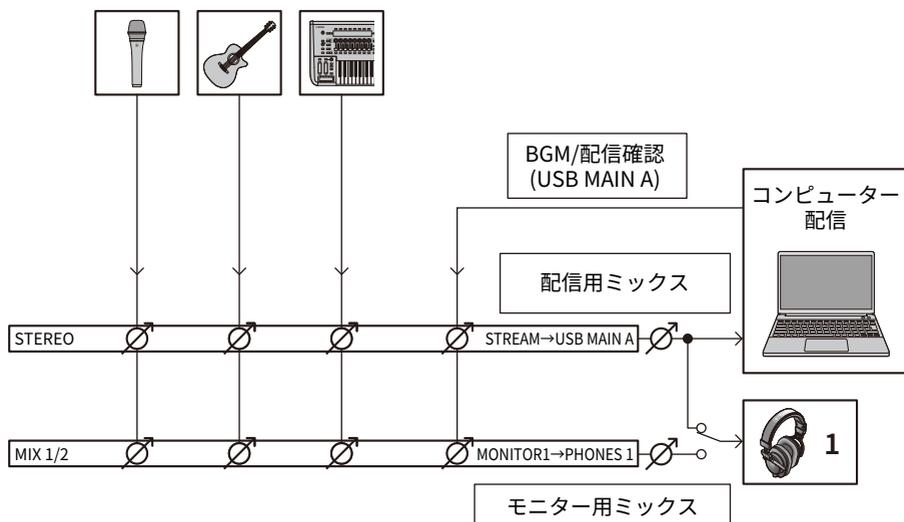
ミキサーのルーティング図



「配信」の概要

配信者が一人で行う、カラオケ配信、楽器演奏配信、雑談配信などのシンプルな配信を想定した設定です。配信者は、配信用ミックスと、ヘッドホンでのモニター用ミックスの2つの音量バランスを調節できます。

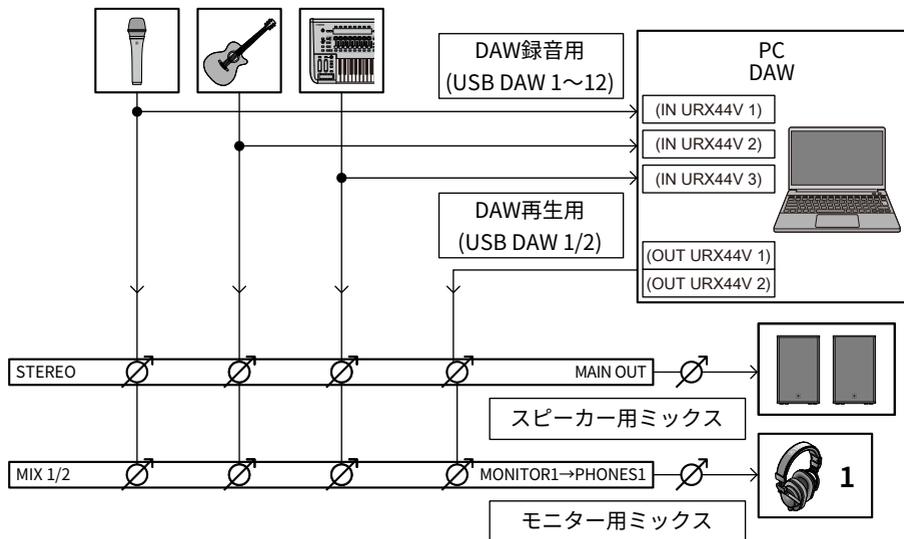
ミキサーのルーティング図



「DAW録音」の概要

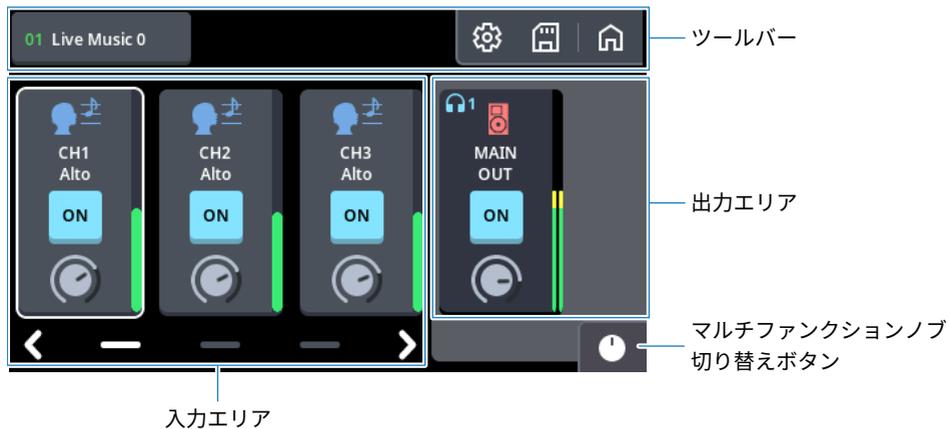
DAWを使って簡単にマルチトラック録音することを想定した設定です。マイクやギターなどの音をヘッドホンでモニターしながら、DAWへ録音します。DAWからの再生音をスピーカーに出力し、録音や編集、ミキシングの結果を確認することもできます。

ミキサーのルーティングは下図のとおりです。



Simpleモード画面

HOME(Overview)画面構成



ツールバー



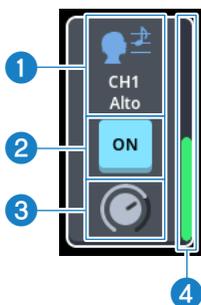
- 1 [SCENE]画面を表示します(74ページ)。
- 2 [SETUP](設定)画面を表示します(54ページ)。
- 3 [microSD]画面を表示します。microSDの再生中/録音中は  /  が表示されます(78ページ)。
- 4 各画面から[HOME]画面を表示します。

入力エリア



ONボタン、レベルノブ以外をタッチしてSEL(選択)します。選択したチャンネルを再度タッチすると「チャンネルビュー画面」(135ページ)が表示されます。

■ チャンネル表示



① チャンネルネームエリア

選択したチャンネルの名前を表示します。Simpleモードでは名前の変更はできません。

② ONボタン

チャンネルのオン/オフを設定します。

③ レベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブでチャンネルのレベルを操作します。

④ インプットメーター

チャンネルへの入力直後のレベルを表示します。

ステレオチャンネルの場合は、ステレオメーターで表示します。

お知らせ

- セットアップアシスタントで入力なしを選択したチャンネルは無効化されています。「+」ボタンをタッチすると、再度セットアップアシスタントを呼び出せます。



- FX1チャンネルは、エリアにタッチしても、チャンネルビュー画面に切り替わりません。

■ 表示チャンネル切り替え



「<」 「>」 ボタンを押すと、表示中の入力チャンネルが3チャンネルずつ切り替わります。

お知らせ

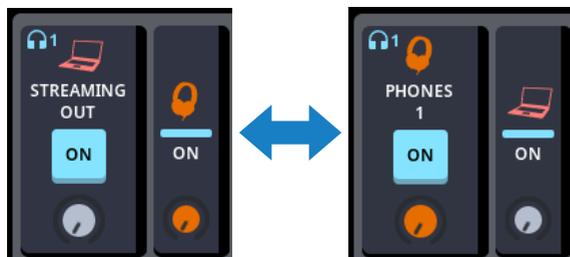
- インพุットチャンネルの表示部分を左右にスワイプすることでも切り替えが可能です。
- 「----」の各ボタンを押すことでも、インพุットチャンネルの表示を切り替えることができます。

ミックス選択と出力エリア

■ ミックス選択

音量バランスを調節するミックスを選択します。調節中のミックスが左側に表示されます。

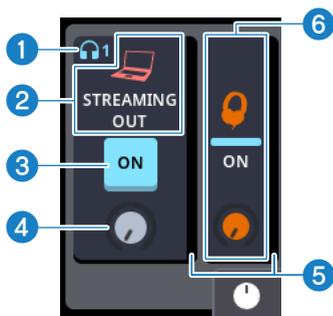
右側のミックスをタッチすると、ミックスが入れ替わります。



お知らせ

「ライブ音楽、イベント」を選択した場合は、1つのミックスしか使用しないため、調節中のミックスのみ表示されます。

■ 出力エリア



① アイコン

調節中のミックスを[PHONES]1でモニターしていることを示します。

② 出力先アイコン/ポート名

出力先ポートのアイコンと、ポート名を表示します。

③ ONボタン

出力音声のオン/オフを行います。

④ レベルノブ

ディスプレイ下のマルチファンクションノブで、出力レベルを調節します。
設定された出力レベルが表示されます。

⑤ アウトプットメーター

音量を調節した後の出力レベルを表示します。

⑥ 調整するミックスの選択

音量バランスを調整するミックスを選択します。このエリアをタッチすると、ミックスが入れ替わり、大きく表示したミックスが音量バランスを調整する対象になります。また、PHONES1マークがついているミックスをPHONES1でモニターします。

出力ポートのアイコン、オン/オフのインジケーター、出力レベル、出力メーターを表示します。

■ マルチファンクションノブ切り替えボタン

「PHONES1」の音量調節は、このボタンをタッチして、対象のパラメーターを操作してください。



お知らせ

マルチファンクションノブをUSER DEFINED KNOBSモードオンにしている場合、④レベルノブの操作はできません。

パラメーター操作例：「配信」ユースケース

STREAMING OUTとPHONES 1のパラメーター操作は、出力エリアのミックスをタッチして、切り替えます。

■ [STREAMING OUT]ミックスが選択されているとき

各入力チャンネルに対応するマルチファンクションノブを操作してSTREAMING OUTの音量バランスを調節します。



■ [PHONES 1]ミックスが選択されているとき

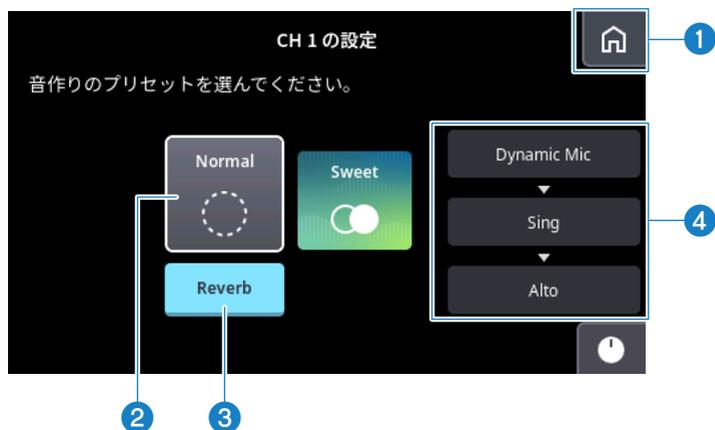
各チャンネルに対応するマルチファンクションノブを操作してPHONES1の音量バランスを調節します。各チャンネルのレベルノブがオレンジ色の状態は、PHONES1のミックスの音量バランスを調節していることを示します。



お知らせ

配信用のSTREAMING OUTミックスと、ヘッドホンでのモニター用のPHONES 1ミックスの2つの音量バランスをそれぞれ柔軟に調節できます。例えば、カラオケ配信の際に、CH1マイク入力の音をSTREAMING OUTミックスには大きくし、PHONES 1ミックスには小さめにする、といった音量調節ができます。

チャンネルビュー画面



1 (HOME)ボタン

SimpleモードのHOME(Overview)画面に戻ります。

2 メインエリア

音声を入力しながら音色を選択します。アイコンをスワイプすることで音色を変えることができます。選択されている音色は白枠で表示されます。

お知らせ

- 同じ音色でも、4 チャンネル設定エリアの選択値によって音が変わります。
- DAWモードでは、入力した音をそのままDAWに送るため、音色が[Dry]のみになります。リバーブボタンも無効化されます。



③ [Reverb]ボタン

リバーブをオン/オフします。水色がオンです。

お知らせ

- リバーブ全体の強さは、Simple モードのHOME(Overview)画面(127ページ)で[FX 1 Reverb] を選択した状態で、マルチファンクションノブを使って調節します。
- 選択した音色によっては自動的にリバーブがオンになるものもあります。

④ チャンネル設定エリア

各ボタンをタッチすると、接続や使い方の再設定をする画面が表示されます。

画面例



音に関する操作

HOME画面(Overview)からゲートを操作する

- 1** Overviewから、ゲートを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [GATE]ボタンをタッチして、ゲートをオンにします。
- 3** ゲートの値を調節する場合は、[GATE]エリアをタッチし、表示されるGATE画面で設定します。

関連リンク

[「GATE画面」\(104ページ\)](#)

HOME画面(Overview)からコンプレッサーを操作する

- 1** Overviewからコンプレッサーを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [COMP]ボタンをタッチして、コンプレッサーをオンにします。
- 3** コンプレッサーの値を調節する場合は、[COMP]エリアをタッチし、表示されるCOMP画面で設定します。

関連リンク

「COMP画面」(105ページ)

HOME画面(Overview)からゲインを操作する

- 1** Overviewから、ゲインを設定したいチャンネル選択し、チャンネルインジケータ
ーエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** INPUT(インプット)エリアを選択します。
- 3** 表示されたインプットエリア画面で、[A.Gain]/[D.Gain]ノブを使ってゲインの値を
調節します。

関連リンク

「INPUT画面」(101ページ)

HOME画面(Overview)からEQを操作する

- 1** Overviewから、EQを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [EQ]ボタンをタッチして、EQをオンにします。
- 3** EQの値を調節する場合は、EQグラフエリアにタッチし、表示されるEQ画面で設定します。

関連リンク

[「EQ画面」\(107ページ\)](#)

HOME画面(Overview)からインサートを操作する

- 1** Overviewからエフェクトを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** INS FXエリアをタッチしてINS FX画面を表示します。
- 3** Effectメニューポップアップボタンをタッチして、エフェクト選択画面を表示し、インサートしたいエフェクトを選択します。
- 4** エフェクトパラメーターを操作する場合は、エフェクトエリアにタッチし、パラメーター設定画面で設定します。

インサートできるエフェクトについては「エフェクトリスト」をご参照ください。

関連リンク

- ・「エフェクトリスト」(189ページ)
- ・「INS FX画面」(115ページ)

HOME画面(Overview)からSSMCSを操作する

- 1 Overviewから、SSMCSを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。**

お知らせ

SSMCSが表示されていない場合は、画面左上のチャンネル設定画面表示ボタンをタッチして、チャンネル設定画面を表示し、[COMP/EQ]の設定を[COMP->EQ]から[SSMCS]に切り替えてください。「戻る」ボタンをタッチすると、チャンネルビューに戻ります。

- 2 [SSMCS]ボタンをタッチし、SSMCSをオンにします。**
- 3 SSMCSの値を調節する場合は、SSMCSエリアにタッチし、表示されるSSMCS画面で設定します。**

関連リンク

- 「SSMCS (Sweet Spot Morphing Channel Strip)画面」(109ページ)
- 「チャンネル設定画面」(100ページ)

HOME画面(Overview)からダッカーを操作する

- 1** Overviewから、ダッカーを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [DUCKER]ボタンをタッチし、DUCKERをオンにします。
- 3** DUCKERの値を調節する場合は、DUCKERエリアにタッチし、表示されるDUCKER画面で設定します。

関連リンク

「DUCKER画面」(116ページ)

HOME画面(Overview)からディレイを操作する

- 1** Overviewから、STREAMINGチャンネルを選択し、チャンネルインジケータエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [DELAY]ボタンをタッチし、DELAYをオンにします。
- 3** DELAYの値を調節する場合は、DELAYエリアにタッチし、表示されるDELAY画面で設定します。

関連リンク

「DELAY画面」(117ページ)

SEND TOの設定

- 1** Overviewから、SEND TOを設定したいチャンネルを選択し、チャンネルインジケーターエリアにタッチして、チャンネルビューにします。
- 2** [SEND TO]ボタンをタッチし、表示されるSEND TO画面で設定します。

関連リンク

「SEND TO画面」(118ページ)

その他の操作

シーンをストアする

- 1** SCENE画面→[Scene List](シーンリスト)から、保存したい番号(のスロット)を選択します。
- 2** [Store]ボタンをタッチして、シーンタイトル入力画面を表示します。
- 3** 表示された画面に、任意のタイトル名を入力し[OK]ボタンをタッチします。
- 4** 確認画面が表示されたら、[OK]をタッチしてシーンをストアします。

関連リンク

「SCENE画面」(74ページ)

シーンをリコールする

- 1** SCENE画面→シーンリストから、リコールしたい番号(のスロット)を選択します。
- 2** [Recall]ボタンをタッチして、シーンをリコールします。

関連リンク

「SCENE画面」(74ページ)

シーンを削除する

- 1** SCENE画面→シーンリストから、削除したい番号(のロット)を選択します。
- 2** サイドメニューで、[Edit]を選択します。
- 3** シーンリストから、削除したい番号(のロット)を選択します。
- 4**  をタッチして、表示されたダイアログで[OK]をタッチしてシーンを削除します。

関連リンク

「SCENE画面」(74ページ)

シーンタイトルを変更する

- 1** SCENE画面→シーンリストから、編集したい番号(のロット)を選択します。
- 2** サイドメニューで、[Edit]を選択します。
- 3** シーンリストから、編集したい番号(のロット)を選択します。
- 4**  をタッチし、表示された画面で新しいタイトル名を入力後、[OK]ボタンをタッチしてシーンタイトルを変更します。

関連リンク

[「SCENE画面」\(74ページ\)](#)

microSDカードに録音する(URX44V、URX44)

- 1 ツールバーから、 をタッチし、表示された画面で[Recorder]をタッチします。
- 2 表示された一覧から[Source]をタッチして、チャンネルごとに録音したいソースを選択します。
- 3 [REC]ボタンをタッチして、録音待機状態にします。待機状態になると [REC]ボタンが点滅します。
- 4 [Play/Pause]ボタンをタッチして、録音を開始します。録音中は、録音時間が表示され、カウンターが進みます。
- 5 録音を終了する場合は、[Stop]ボタンをタッチします。作成した録音データには、自動でファイル名が付きます。

お知らせ

録音中に[Play/Pause]ボタンをタッチして、録音を一時停止できます。一時停止中は[Play/Pause]ボタンが赤色になります。

関連リンク

「microSD画面(URX44V、URX44)」(78ページ)

microSDカードに録音した音声を再生する(URX44V、URX44)

- 1 ツールバーから、 をタッチし、表示された画面で[Recorder]をタッチします。
- 2 サイドメニューから[Play]をタッチします。
- 3 再生可能ファイルリストから、再生したいファイルを選択します。
- 4 [Play/Pause]ボタンをタッチして、ファイルを再生します。

お知らせ

- ファイルを再生中に、[TOUCH AND TURN]ノブを押して他のファイルを選択すると、再生中のファイルを停止します。その後、選択されたファイルが再生されます。
- 再生中のファイルを選択した状態では、ノブを押すたびに、再生/一時停止を繰り返します。

関連リンク

「microSD画面(URX44V、URX44)」(78ページ)

モニター機能を使用する

- 1 リアパネルのOUTPUT端子にモニターシステムを接続します。
- 2 ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Monitor]メニューから操作します。
- 3 サブメニューの[Setting]で、Source からモニターソースを選択します。
- 4 モニターを有効にするには、[ON]ボタンをタッチします。
- 5 ノブを使用してモニターレベルを調節します。

関連リンク

「Monitorメニュー」(69ページ)

PHONESを使用する

- 1** ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Phones]メニューから操作します。
- 2** PHONESのソースをMONITOR1、2で確認します。
PHONESのソースはMONITOR1、2から出力されます。
- 3** ノブを使用してモニターレベルを調節します。

関連リンク

「Phonesメニュー」(71ページ)

オシレーターを使用する

スピーカーへの出力の確認や、ラインチェックに使用します。

- 1** ツールバーにある  をタッチし、MONITOR画面の[Oscillator]メニューから操作します。
- 2** Oscillator Modeで再生したいモードを選択します。
モードによって周波数などの設定ができます。

お知らせ

オシレーターの出力先は、サブメニューの[Assign]で任意のチャンネルをアサインできます。

- 3** [ON]ボタンをタッチすると出力されます。
- 4** ノブを使用してオシレーターレベルを調節します。

関連リンク

「Oscillatorメニュー」(72ページ)

キュー機能を使用する

HOME画面(Overview)や、チャンネル専用画面の[CUE]ボタンを使って、キュー信号をモニターする方法を説明します。

- 1** [Monitor]メニューの[Setting]から[CUE Interruption]をオンにします。
- 2** HOME画面(Overview)やチャンネル専用画面の[CUE]ボタンをタッチして、[CUE]をオンにします。

お知らせ

HOME画面(Overview)では、[CUE]がオンの時、CUEインジケーターが表示されCUEバスのメーターを表示します。この時メーターエリアにタッチするとすべての[CUE]をオフにできます。

関連リンク

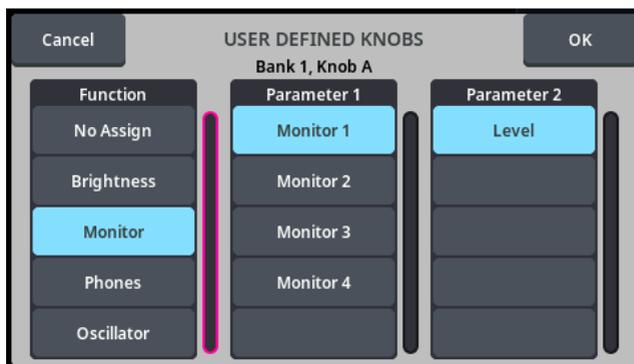
- 「HOME画面(Overview)」(46ページ)
- 「Monitorメニュー」(69ページ)

User Definedノブに機能をアサインする

- 1 ツールバーの  をタッチして、表示されたメニューの[USER DEFINED KNOBS]をタッチします。
- 2 [Bank]から、設定したいバンク番号をタッチします。
- 3 選択したバンクのノブID (A~D)が表示されたら、設定したいノブIDをタッチします。



- 4 表示された画面で、アサインする機能を選択します。設定が完了したら、[OK]ボタンをタッチしてダイアログを閉じてください。



選択したFunction(機能)名とParameter(パラメーター)名は、USER DEFINED KNOBSモードをオンにすると、略記で画面下部に表示されます。



その他の操作 > User Defined ノブに機能をアサインする

5 同様の手順でノブID(B~D)に機能を設定します。

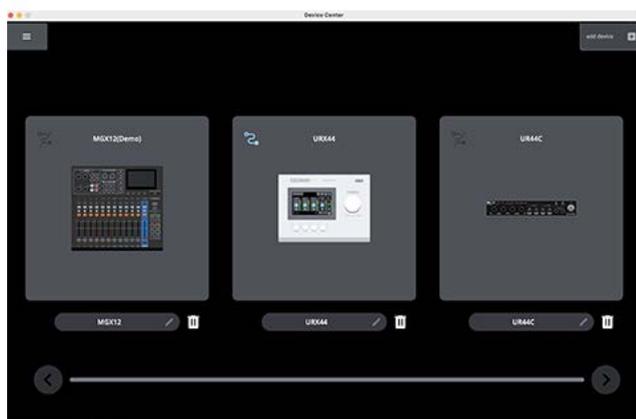
ファームウェアをアップデートする

1 本製品と、TOOLS for MGX/URXをインストールしたコンピューターが、USBケーブルで接続されていることを確認します。

2 Device Centerのデバイスリスト画面を表示します。

本製品のファームウェアをアップデートするには、デバイス設定ソフトウェアDevice Centerを使用します。Device CenterはTOOLS for MGX/URXに含まれています。以下の手順でDevice Centerを起動し、デバイスリスト画面を表示します。

- Windows: スタートメニューまたはデスクトップのショートカットからDevice Centerを起動
- Mac: アプリケーションフォルダーからDevice Centerを起動

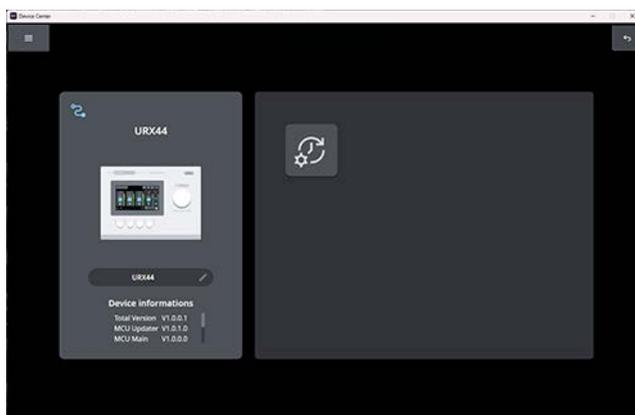


3 Device Centerのデバイスリスト画面で、ファームウェアをアップデートしたいURXを選択します。

4 選択したURX以外のヤマハ製品をコンピューターから取り外します。

その他の操作 > ファームウェアをアップデートする

5 [](ファームウェアアップデート)をクリックします。



6 画面の指示に従って、ファームウェアアップデートを実行します。

7 アップデートの完了を示す画面が表示されたら、[Close]をクリックします。

以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

Software Integration機能を使用する (V1.2以降)

準備 (DAW Integration)

DAW Integrationは、DAWソフトウェアと入出力、ルーティングを連携することで、ソフトウェアから本製品を制御できる機能です。DAW Integrationの対応ソフトウェアは Steinberg Cubase、Nuendo、MixKeyです。この機能を使えば、ハードウェアミックスによるレイテンシーのない快適なモニター環境を構築できます。

DAW Integration機能を使用するためには、次の3つの準備が必要です。必要に応じて準備してください。

- **TOOLS for MGX/URXのインストール**(21ページ)

TOOLS for MGX/URX V1.1.0以降がインストールされている必要があります。バージョンが古い場合は、最新バージョンをインストールしてください。

- **本製品のファームウェアのアップデート**(158ページ)

最新のファームウェアにアップデートしてください。

- **対応ソフトウェアのインストール**

TOOLS for MGX/URX V1.1.0以降がインストールされたコンピューターに、Steinberg Cubase、NuendoまたはMixKeyをインストールします。各ソフトウェアの案内は、次のURLをご覧ください。

- Cubase/Nuendo : <https://www.yamaha.com/2/urx-software-1/>

- MixKey : <https://www.steinberg.net/mixkey/>

DAW Integration設定手順

- 1** 本体の[USB MAIN]端子に、対応ソフトウェアをインストールしたコンピューターを接続します。
- 2** 対応ソフトウェアを起動します。
本体とソフトウェアが連携され、DAW Integrationの画面が表示されます。



- 3** ソフトウェアを操作して本体の設定をします。
ソフトウェアでの設定方法や連携機能については、「DAWとの連携」(163ページ)をご参照ください。

お知らせ

DAW Integration動作時の制限について

Standard モード時と異なり、主に次の機能が使用できなくなります。

- Stereoバス、STEREOチャンネル
- SCENE(シーン)機能
- microSDのレコーダー機能
- 対応ソフトウェアのダイレクトモニタリングがオンの場合：MONO IN対象チャンネルからMIXバスへのセンドは、ソフトウェアから操作します。本体では下記画面が表示され、操作できなくなります。



■ DAW Integration動作時の信号の流れについて

DAWソフトウェアからの信号はMIXバス、FXバスに直接接続されます。各チャンネルの入力ソースではUSB DAWが選択できなくなります。

DAWアプリで見える信号名がどのバスに接続されているかは、「ブロックダイアグラム」(196ページ)をご参照ください。

■ DAW Integrationの解除

ソフトウェアを終了した場合や、コンピューターとの通信が途絶した場合は、DAW Integrationが自動的に解除され、Standard モードに戻ります。

DAWとの連携

Cubaseシリーズ専用画面

本体の設定をCubaseシリーズから操作するための画面です。入力設定画面とハードウェア設定画面の2つがあります。



入力設定画面



ハードウェア設定画面

画面の開き方

入力設定画面

Cubaseシリーズのメニューから、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio]でオーディオトラックを作成し、画面左側のインスペクターに表示される[URXxxx]タブをクリックします(xxxにはお使いのモデル名が入ります)。

ハードウェア設定画面

Cubaseシリーズメニューから

[スタジオ] → [スタジオ設定]を開き、左側の[Steinberg I/O]で[Yamaha MGX/URX]を選択します。

入力設定画面

ヘッダーエリア

接続された機器名を表示します。

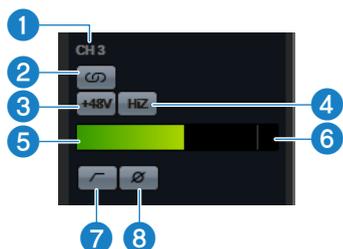


① モデル

操作対象のモデル名(URXxxx)を表示します。クリックすると入力設定画面の表示/非表示が切り替わります。

ハードウェア入力設定エリア

本体のインプットに関連するパラメーターを設定します。



① ポートネーム

入力バスのデバイスポート名を表示します。

② ステレオリンク

隣り合った2つのチャンネル(CH1/2、CH3/4など)の動作モードを設定できます。オンの時はステレオリンク(STEREO)となり、オフの時は独立した2チャンネル(MONO×2)となります。

③ +48V

+48Vのオン/オフを切り替えます。

④ HI-Z

HI-Zのオン/オフを切り替えます。

⑤ インプットメーター

入力レベルを表示します。

6 クリップインジケータ

入力信号がクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

7 ハイパスフィルター

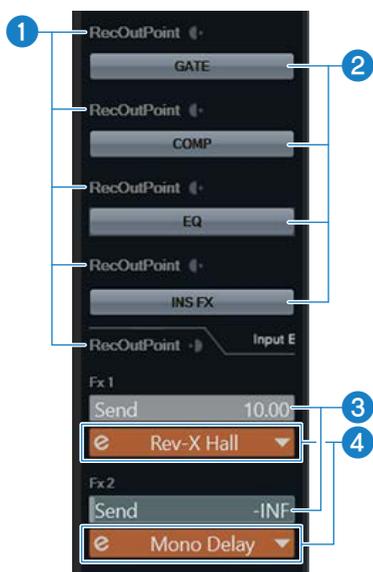
HPF(ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。

8 フェーズ

信号の位相反転(180°)のオン/オフを切り替えます。ステレオの場合はLRを表示します。

チャンネルストリップ設定エリア

本体のチャンネルストリップ(チャンネルの信号処理)に関するパラメーターを設定します。



1 RecOutPoint

チャンネルのダイレクト録音信号の取り出しポイントを選択します。アイコンをクリックすると取り出しポイントが切り替わります。

2 GATE/COMP/EQ/SSMCS/INS FX

GATE、COMP、EQ、SSMCS、INS FXのオン/オフを切り替えます。

COMPとEQは、本体のCOMP/EQ設定がCOMP->EQの場合に表示されます。

SSMCSは、本体のCOMP/EQ設定がSSMCSの場合に表示されます。

3 FX1/FX2センド

FX1/FX2に送る信号の量(エフェクトのかかり具合)を調節します。

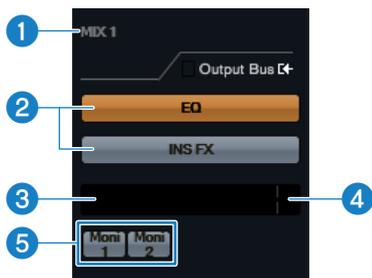
範囲: $-\infty$ dB~+10.00 dB

4 FX1/FX2ネーム

選択されたエフェクトのタイプ名を表示します。

アウトプットエリア

本体のアウトプットチャンネルに関連するパラメーターを設定します。



1 Mix Busネーム

本体のハードウェアMix Busを表示します。このMix Busには、トラックの出力バスが接続されている必要があります。

2 EQ / INS FX

EQ、INS FXのオン/オフを切り替えます。

3 アウトプットメーター

トラックの出力バスが接続された本体のMIXチャンネルのメーターを表示します。

4 クリップインジケーター

入力信号がクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

5 モニター(Monitor)セレクトボタン

信号を出力するモニターを1、2の中から選択します。

■ ダイレクトモニタリング機能の設定

ダイレクトモニタリングをオンにすることで、レイテンシーのないモニタリング環境が構築できます。以下の方法で設定できます。

Windows

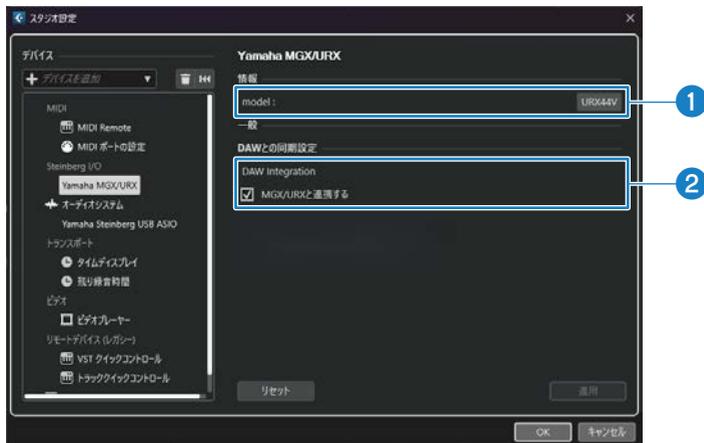
Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

Mac

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha URxxxx DAW] または [Yamaha URxxxx DAW (High Precision)] → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

ハードウェア設定画面

本体の設定やCubaseとの連携機能に関わる設定、情報を表示します。



① model

接続しているモデル名を表示します。

② DAW Integration

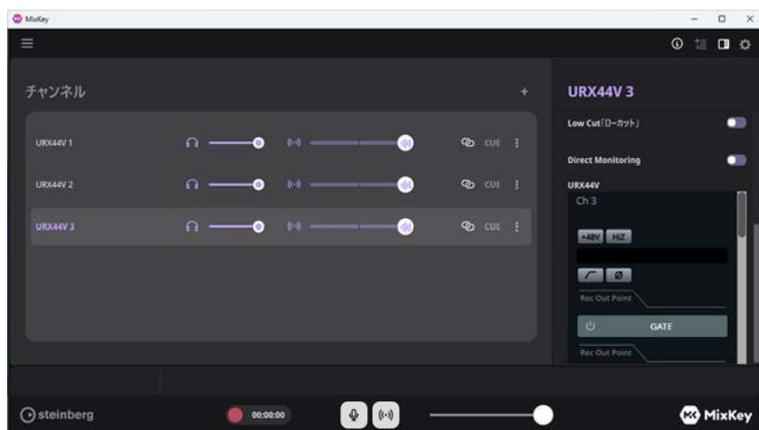
チェックが入っているときは、DAW Integration拡張機能が有効になります。チェックを外すと拡張機能が無効になり、次回起動時からCubaseとの連携ができなくなります。

お知らせ

その他Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズの取扱説明書をお読みください。

MixKeyチャンネルエディター

MixKeyアプリのチャンネルエディターを使うと、本体のパラメーターをMixKeyアプリから設定できます。



画面の開き方

- 1  をクリックして、ミキサー/設定画面を開きます。
- 2 [設定]から[オーディオ]をクリックします。
- 3 [オーディオシステム]でドライバーを下記のように選択します。

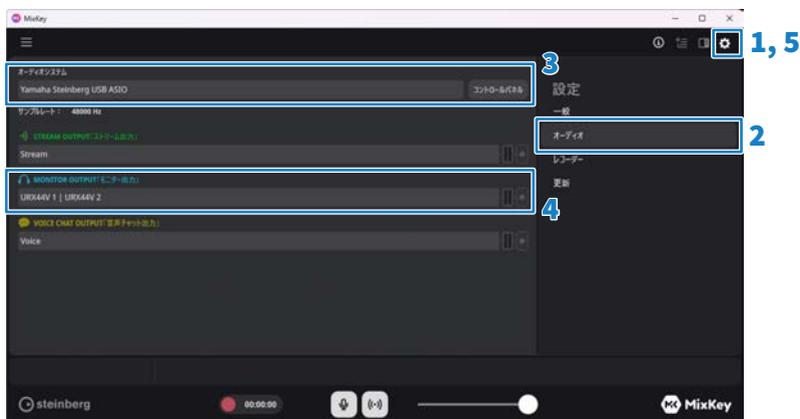
Windows

[Yamaha Steinberg USB ASIO]を選択

Mac

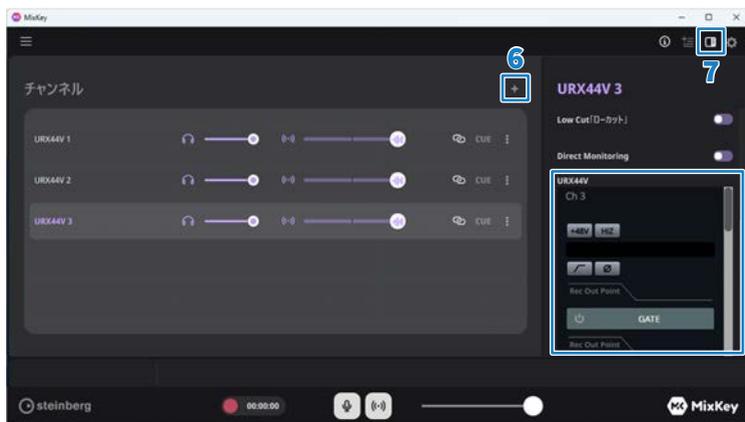
[Yamaha URXxxx DAW]または[Yamaha URXxxx DAW (High Precision)]を選択

- 4 [MONITOR OUTPUT「モニター出力」]でASIO Output DevicesのURXモデルのポートを選択します。
- 5  をクリックして、ミキサー/設定画面を閉じます。



- 6  をクリックして、サウンド入力ソースを追加します。ソースには、Yamaha Steinberg USB ASIO(Windows)またはYamaha URXxxx DAW/Yamaha URXxxx DAW (High Precision)(Mac)からURXモデルのポートを選択します。

- 7**  をクリックして、チャンネルエディターを開きます。
チャンネルエディターの右下に本体の入力設定画面が表示されます。



表示される設定画面は、Cubaseシリーズの「入力設定画面」(165ページ)と同じです。
MixKeyにはCubaseシリーズのハードウェア設定画面に相当する画面はありません。

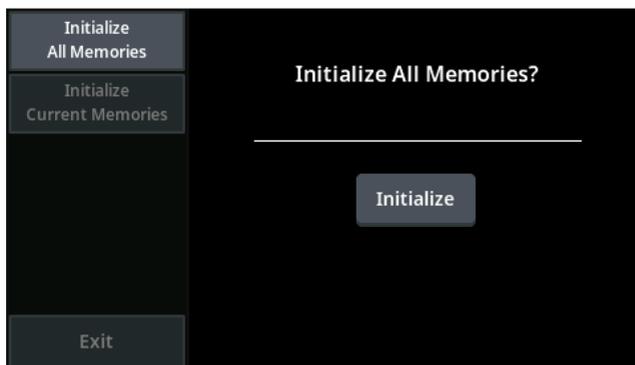
工場出荷時の状態に戻す

本体を初期化する

お知らせ

工場出荷時の状態に戻すと、本体に保存した内容がすべて消えてしまいます。慎重に判断してください。

- 1 一番右のマルチファンクションノブを押した状態で電源を入れます。
- 2 初期化画面が表示されたら、画面左から実行するメニューを選択して、[Initialize] ボタンをタッチします。



[Initialize All Memories]

シーンメモリーを含む、すべてのメモリーを工場出荷時の状態に戻します。

[Initialize Current Memories]

シーンメモリーを除くカレントメモリーを工場出荷時の状態に戻します。

- 3 実行を確認するダイアログが表示されたら、[OK]をタッチします。
初期化が実行されます。

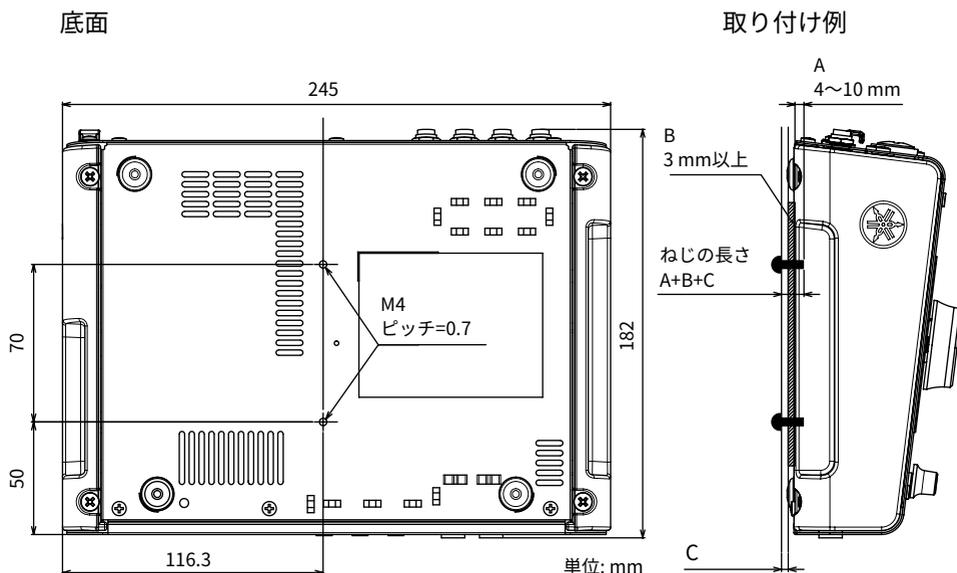
パネルやスタンドに設置する

本製品を取り付ける

本製品は、底面のネジ穴を使って、市販の固定具(パネルやスタンドなど)に取り付けられます。固定具を取り付けるときは、下記の資料を参考にしてください。

ご注意

- ネジはゆるまないように十分に締め付けてください。



A : 本製品内へのねじ込み深さ: 4~10 mm

B : ゴム脚、ねじの突起を避けるスペーサーの厚さ: 3 mm以上

C : 取り付ける固定具の厚さ

よくあるご質問

困ったときは(音声のトラブル)

音が出ない

■ 接続に関する原因

● 機器の接続が適切でない

マイクなどの外部機器やモニタースピーカーを正しく接続してください。

● ケーブルが破損している

ケーブルがショートまたは断線していないかを確認してください。

■ 外部機器に関する原因

● モニタースピーカーの電源がオフになっている

モニタースピーカーの電源をオンにしてください。

■ 本体の設定に関する原因

● 入力/出力信号の設定が適切でない

「INPUT画面」(101ページ)/「Output Patchメニュー」(61ページ)で、入力/出力ソースが適切に選択されているかを確認してください。

● 入力ゲインが低すぎる

「INPUT画面」(101ページ)でゲインを調節してください。

● 該当チャンネルの[ON]ボタンがオフになっている

[ON]ボタンを押してください。

● ファンタム電源がオフになっている

コンデンサーマイクを使用する場合は、「INPUT画面」(101ページ)で[+48V]ボタンをオンにしてください。

● 出力レベルが低すぎる

出力レベルを調節してください。

■ コンピューター、ソフトウェアに関する原因

● コンピューターにドライバーがインストールされていない

下記のヤマハウェブサイトから、TOOLS for MGX/URXをインストールしてください。Yamaha Steinberg USB Driverが自動でインストールされます。

<https://www.yamaha.com/2/urx/>

● バッファサイズが小さい

Yamaha Steinberg USB Driverの設定画面を開き、バッファサイズを調節してください。

設定画面の開き方

Windows

- ・ スタートメニューから、[Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- ・ Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

Mac

- ・ Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha URXxxx DAW]または[Yamaha URXxxx DAW (High Precision)] → [コントロールパネル]

(xxxにはお使いのモデル名が入ります)

● DAWソフトのオーディオ設定が適切でない

DAWソフトのオーディオ設定を確認してください。

Cubaseの場合

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [オーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)、[Yamaha URXxxx DAW]または[Yamaha URXxxx DAW (High Precision)] (Mac)が選ばれていることを確認してください。

(xxxにはお使いのモデル名が入ります)

● 入出力のルーティングが適切でない

DAWソフトで入力と出力の設定を確認してください。

Cubaseの場合

[スタジオ] → [オーディオコネクション]を開き、入力と出力の設定を確認してください。

● Audio Format is Unmixableのメッセージが表示される(Macのみ)

Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されます。この場合は、[Revert to Mixable]を押してエラーを解消してください。

● 配信ソフトウェアの音量が小さすぎる

配信ソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア側での音量の調節をしてください。

よくあるご質問 > 困ったときは(音声のトラブル)

音が歪む

- **本体に接続した機器の音量が大きすぎる**
接続した機器の出力レベルを下げてください。
- **ゲインの設定が適切でない**
INPUT画面でゲインを調節してください。

困ったときは(電源)

■ 電源が入らない (URX44、URX22)

● コンピューターの電源が入っていない

本製品をUSBバスパワーで動作させる場合は、コンピューターの電源を入れてください。

● コンピューター、USB電源アダプターまたはUSBモバイルバッテリーが正しい端子に接続されていない

- ・ コンピューターは[USB MAIN]端子に接続してください。
- ・ USB電源アダプターまたはUSBモバイルバッテリーは[5V DC IN]端子に接続してください。

● 適切なUSB電源アダプターまたはUSBモバイルバッテリーを使っていない

出力がDC 5V(3A以上)のものをお使いください。

■ 電源が切れる(URX44V)

一定時間操作がないとオートパワーオフ機能が働いて、自動で電源がオフになります(初期設定)。「Power Managementメニュー」(65ページ)で、オートパワーオフの設定が変更できます。

困ったときは (その他のトラブル)

■ ディ스플레이が暗い

[Brightness]メニューからScreenの数値を調節してください。

■ microSDカードの録音日時が正しく設定されない(URX44V, URX44)

本体内蔵のバッテリーが消耗すると本体の時計が停止するため、microSDカード録音の録音日時が正しく設定されません。

ディスプレイに「Low Battery」または「No Battery」のワーニングが表示されたときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターに連絡して、時計用のバッテリーの交換を依頼してください。

■ ファームウェアをアップデートできない

アップデートに失敗した場合は、エラー画面が表示されます。再度アップデートを実行する場合は[Retry]ボタンを、そのまま終了する場合は[OK]ボタンをクリックしてください。

資料

商標

USB Type-C™ および USB-C™ は USB Implementers Forumの商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Mac、macOS、iPad、iPhone、iPadOS、App Store、Lightningは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

日本では、iPhoneは、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されている商標です。

Android は Google LLC の商標です。

SteinbergおよびCubaseは、Steinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

MIDIは、社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

microSD および microSD ロゴは SD-3C, LLCの商標です。

その他、本ガイドに記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

一般仕様

		URX44V	URX44	URX22	
ミキシング グキャパ シティ	入力チャンネル	4 mono + 4 stereo + 2 FX		2 mono + 4 stereo + 2 FX	
	バス	2 MIX (Stereo) + 2 FX + 1 CUE + 1 STEREO			
入出力コ ネクター	アナログ入力	2 Mic/Line (2 XLR/TRS Phone Combo) 2 Mic/Line/HI-Z (2 XLR/TRS Phone Combo) 1 HEADSET MIC (3.5 mm Phone、プラグインパワー) (CH1のマイク入力とヘッドセットマイクは同時に使用できません) 1 AUX (3.5 mm Phone)		1 Mic/Line (1 XLR/TRS Phone Combo) 1 Mic/Line/HI-Z (1 XLR/TRS Phone Combo) 1 HEADSET MIC (3.5 mm Phone、プラグインパワー) (CH1のマイク入力とヘッドセットマイクは同時に使用できません) 1 AUX (3.5 mm Phone)	
	アナログ出力	4 Line (TRS Phone)		2 Line (TRS Phone)	
	USB to HOST	2 (USB Type-C)			
	PHONES	3 (2 × Stereo Phone, 1 × 3.5 mm) PHONES 1端子と3.5 mmステレオフォン端子は同時に使用できません。			
	DC 電源入力	バレル型 ×1	USB Type-C ×1		
	HDMI IN (URX44V)	1			
	HDMI THRU (URX44V)	1			
	SD Card スロット (URX44V、URX44)	1 microSD Card スロット			
	ユーザー インター フェース	ディスプレイ	4.3インチ タッチスクリーン		
		ノブ	5 × Rotary Encoder (4 × screen knob, 1 × TOUCH AND TURN knob)		
録音、再 生機能	USB MAIN	録音 最大18トラック、再生 最大18トラック		録音 最大16トラック、再生 最大16トラック	
	USB SUB	録音 2トラック / 再生 2トラック			
	microSD Card (URX44V、URX44)	録音 最大16トラック / 再生 2トラック			

		URX44V	URX44	URX22
サンプリング周波数	周波数	44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz / 176.4 kHz / 192 kHz		
	精度	±50 ppm		
電源電圧		DC 16 V/2.4 A、電源アダプター PA-300 (100 V~240 V, 50 Hz/60 Hz)	DC 5 V/3 A via USB MAIN (バスパワー) または 5V DC IN (外部電源)	
消費電力		38.4 W	15 W	
オフ時消費電力		0.1 W		
オートパワーオフ		2~20分の間で調節可能		
寸法 (幅×高さ×奥行き)		245 mm × 78 mm × 182 mm		
質量		2.0 kg	1.9 kg	
動作温度		0~40 °C		
保管温度		-20~60 °C		
同梱品		スタートガイド ×1 セーフティーガイド ×1 Cubase AI License Card ×1 Steinberg Plus License Card ×1 Basic FX Suite License Card ×1 USB-C to USB-Cケーブル (USB 3.2, 1 m) ×1 電源アダプター (PA-300 電源コード含む) ×1 フェライトコア ×1	スタートガイド ×1 セーフティーガイド ×1 Cubase AI License Card ×1 Steinberg Plus License Card ×1 Basic FX Suite License Card ×1 USB-C to USB-Cケーブル (USB 2.0, 1.5 m) ×1	

技術仕様

0 dBu = 0.775 Vrms, 0 dBV = 1.0 Vrms

URX44V、URX44

MIC INPUT 1-4(バランス)	
周波数特性	+0.0/−0.2 dB, 20 Hz~20 kHz
ダイナミックレンジ	115 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.0008 %, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大入力レベル	+16 dBu
入力インピーダンス	4 kΩ
Gain 範囲	78 dB (−8 dB~+70 dB)
入力換算ノイズ	−128 dBu, A-Weighted

LINE INPUT 1-4(バランス)	
最大入力レベル	+24 dBu
入力インピーダンス	10 kΩ
Gain 範囲	78 dB (−16 dB~+62 dB)

HI-Z INPUT(INPUT 3/4アンバランス)	
最大入力レベル	+9 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain 範囲	48 dB (−7.2 dB~+40.8 dB)

HEADSET MIC(アンバランス)	
最大入力レベル	−6 dBV
入力インピーダンス	2.2 kΩ
Gain 範囲	28 dB (+12 dB~+40 dB)

AUX L/R(アンバランス)	
最大入力レベル	0 dBV
入力インピーダンス	10 kΩ

MAIN OUTPUT(バランス)

周波数特性	+0.0/−0.02 dB, 20 Hz~20 kHz
ダイナミックレンジ	125 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.00036 %, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大出力レベル	+16 dBu
出カインピーダンス	300 Ω

LINE OUTPUT(インピーダンスバランス)

周波数特性	+0.0/−0.02 dB, 20 Hz~20 kHz
ダイナミックレンジ	118 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.0022 %, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大出力レベル	+10 dBu
出カインピーダンス	150 Ω

PHONES 1/2

最大出力レベル	100 mW + 100 mW, 40 Ω
出カインピーダンス	10 Ω

アナログ-デジタルコンバーター(INPUT 1-4)

ダイナミックレンジ	120 dB, A-Weighted
全高調波歪率	−112 dB, A-Weighted

デジタル-アナログコンバーター(MAIN OUTPUT)

ダイナミックレンジ	130 dB, A-Weighted
全高調波歪率	−120 dB, A-Weighted

XLR INPUT

極性

- 1: グラウンド
- 2: ホット(+)
- 3: コールド(-)

URX22**MIC INPUT 1/2(バランス)**

周波数特性	+0.0/−0.2 dB, 20 Hz~20 kHz
ダイナミックレンジ	115 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.0008 %, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大入力レベル	+16 dBu
入力インピーダンス	4 kΩ
Gain 範囲	78 dB (−8 dB~+70 dB)
入力換算ノイズ	−128 dBu, A-Weighted

LINE INPUT 1/2(バランス)

最大入力レベル	+24 dBu
入力インピーダンス	10 kΩ
Gain 範囲	78 dB (−16 dB~+62 dB)

HI-Z INPUT(INPUT 2アンバランス)

最大入力レベル	+9 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain 範囲	48 dB (−7.2 dB~+40.8 dB)

HEADSET MIC(アンバランス)

最大入力レベル	−6 dBV
入力インピーダンス	2.2 kΩ
Gain 範囲	28 dB (+12 dB~+40 dB)

AUX L/R(アンバランス)

最大入力レベル	0 dBV
入力インピーダンス	10 k Ω

MAIN OUTPUT(バランス)

周波数特性	+0.0/−0.02 dB, 20 Hz~20 kHz
ダイナミックレンジ	125 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.00036 %, 1 kHz, 20 kHz LPF
最大出力レベル	+16 dBu
出力インピーダンス	300 Ω

PHONES 1/2

最大出力レベル	100 mW + 100 mW, 40 Ω
出力インピーダンス	10 Ω

アナログ-デジタルコンバーター(INPUT 1/2)

ダイナミックレンジ	120 dB, A-Weighted
全高調波歪率	−112 dB, A-Weighted

デジタル-アナログコンバーター(MAIN OUTPUT)

ダイナミックレンジ	130 dB, A-Weighted
全高調波歪率	−120 dB, A-Weighted

XLR INPUT

極性

- 1: グラウンド
- 2: ホット(+)
- 3: コールド(−)

■ デジタル入出力規格

端子	フォーマット	データ長	規格	オーディオ	端子形状
USB to Host [MAIN]	PCM	32-bit / Up to 192 kHz	Yamaha Steinberg USB Driver	URX44V, URX44: Up to 18 in / 18 out URX22: Up to 16 in / 16 out	USB (Type-C, USB 2.0: High Speed)
		32-bit / Up to 192 kHz	USB Audio Class (UAC 2.0)	URX44V, URX44: 14 in / 12 out URX22: 12 in / 10 out	
USB to Host [SUB]	PCM	16-bit / 48kHz	USB Audio Class (UAC 1.0)	2 in / 2 out	USB (Type-C, USB 2.0: Full Speed)
microSD Card Slot (URX44V、 URX44)	WAV	24-bit / Up to 192 kHz	microSDHC/ microSDXC (UHS-I or higher, Class 10 or higher), exFAT supported	Recording: 16 tracks @ 44.1/48 kHz 8 tracks @ 88.2/96 kHz 2 tracks @ 176.4/192 kHz Playback: 2 tracks	microSD Card Slot
HDMI IN (URX44V)	PCM	Up to 24-bit / 192 kHz	HDMI, HDCP	8 in	HDMI (Type A)
HDMI THRU (パ ススルー) (URX44V)	PCM	Up to 24-bit / 48 kHz	HDMI, HDCP	2 out	HDMI (Type A)

HDMIおよびUSB SUBから入力された音声信号は、自動的に本体の音声フォーマットに変換されます。

■ ビデオ入出力規格 (URX44V)

端子	解像度	規格	特長	端子形状
HDMI IN	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	HDMI, HDCP	HDR10, HLG, VRR	HDMI (Type A)
HDMI THRU (パススルー)	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	HDMI, HDCP	HDR10, HLG, VRR	HDMI (Type A)
USB to HOST [MAIN]	Up to 4K60, 1440p120, 1080p240	USB Video Class (UVC 1.1) ^{*1}	HDR10, HLG	USB (Type-C, USB 3.2 Gen1, 5 Gbps)

*1 WindowsおよびmacOSではドライバのインストールは不要

本ガイドは、発行時点での最新仕様で説明しています。

エフェクトリスト

COMPANDER-H、COMPANDER-S

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネル、アウトプットチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOのチャンネルペアにインサートするとステレオ動作になります。 ただし、2つのMONOチャンネルにインサートすることはできません。
同時使用可能数	MONO INチャンネルで1スロット、アウトプットチャンネルで1スロット ただし、MULTI-BAND COMPRESSORと同時には使用できません。

MULTI-BAND COMPRESSOR

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	アウトプットチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOのチャンネルペアにインサートするとステレオ動作になります。 ただし、2つのMONOチャンネルにインサートすることはできません。
同時使用可能数	1スロット ただし、COMPANDER-H、COMPANDER-Sと同時には使用できません。

PITCH FIX

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOの場合は使用できません。
同時使用可能数	1スロット

GUITAR AMP CLASSICS (Clean, Crunch, Lead, Drive)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	MONO INチャンネルのINS FXで使用できます。 Signal TypeがSTEREOの場合は使用できません。
同時使用可能数	1スロット

REV-X (HALL/ROOM/PLATE)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
対応チャンネル	FX1で使用できます ただし、MONO DELAY、PING PONG DELAYと同時に使用できません。

REV-R3 (HALL/ROOM/PLATE)

対応サンプリング周波数	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX2で使用できます ただし、MONO DELAY、PING PONG DELAYと同時に使用できません。

MONO DELAY

対応サンプリング周波数	[FX1]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz [FX2]: 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX1、FX2で使用できます FX1では、REV-XおよびPING PONG DELAYと同時に使用できません。FX2では、REV-R3およびPING PONG DELAYと同時に使用できません。

PING PONG DELAY

対応サンプリング周波数	[FX1]:44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz [FX2]: 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
対応チャンネル	FX1、FX2で使用できます FX1では、REV-XおよびMONO DELAYと同時に使用できません。FX2では、REV-R3およびMONO DELAYと同時に使用できません。

User Definedノブに割り当て可能な機能

User Definedノブに割り当て可能な機能を次に示します。

ファンクション	Parameter 1	Parameter 2	
		URX44V、URX44	URX22
No Assign	---	---	---
Brightness	Screen	---	---
Monitor	Monitor 1-2	Level	Level
Phones	Phones 1-2	Level	Level
Oscillator	Level	---	---

USB MAIN信号名対照表

Windows

使用可能領域				URX44V、 URX44 (44.1 kHz、 48 kHz、 88.2 kHz、 96 kHz)	URX22 (44.1 kHz、 48 kHz、 88.2 kHz、 96 kHz)	URX44V、 URX44 (176.4 kHz、192 kHz) URX22 (176.4 kHz、192 kHz)
コンピューター 一側出力信号 名	A Yamaha URX**	B Yamaha URX**	C Yamaha URX**	URX** 1~12	URX** 1~10	URX** 1~4
	サウンドの出力デバイスとしてコンピューターに認識される			Yamaha Steinberg USB ASIOデバイスとしてDAWなどで使用		
本体側 入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1~12	USB DAW 1~10	USB DAW 1~4
本体側 出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1~12 Rec Out)	(CH 1~10 Rec Out)	(CH 1~4 Rec Out)
コンピューター 一側入力信号 名	A Yamaha URX**	B Yamaha URX**	C Yamaha URX**	URX** 1~12	URX** 1~10	URX** 1~4
	サウンドの出力デバイスとしてコンピューターに認識される			Yamaha Steinberg USB ASIOデバイスとしてDAWなどで使用		

**にはモデル名(44V、44、22)が入ります。

Mac

使用可能領域							URX44V、 URX44 (44.1 kHz、 48 kHz、 88.2 kHz、 96 kHz)	URX22 (44.1 kHz、 48 kHz、 88.2 kHz、 96 kHz)	URX44V、 URX44 (176.4 kHz、192 kHz) URX22 (176.4 kHz、192 kHz)
コンピュータ 一側出力信号 名	Yamaha URX** A		Yamaha URX** B		Yamaha URX** C		Yamaha URX** DAW		
	URX* * A L	URX* * A R	URX* * B L	URX* * B R	URX* * C L	URX* * C R	URX** 1~12	URX** 1~10	URX** 1~4
本体側 入力信号名	USB MAIN A		USB MAIN B		USB MAIN C		USB DAW 1~12	USB DAW 1~10	USB DAW 1~4
本体側 出力信号名	USB MAIN A		USB MAIN B		USB MAIN C		(CH 1~12 Rec Out)	(CH 1~10 Rec Out)	(CH 1~4 Rec Out)
コンピュータ 一側入力信号 名	Yamaha URX** A		Yamaha URX** B		Yamaha URX** C		Yamaha URX** DAW		
	URX* * A L	URX* * A R	URX* * B L	URX* * B R	URX* * C L	URX* * C R	URX** 1~12	URX** 1~10	URX** 1~4

**にはモデル名(44V、44、22)が入ります。

iPad/iPhone (URX44V、URX44)

Generic Driver Audio Channel Suppression = Noneの場合

機器側出力信号	-	-	-	CH 1~12
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1~12
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1~12 Rec Out)
機器側入力信号	CH 13、14	-	-	CH 1~12

Generic Driver Audio Channel Suppression = 2 Channelsの場合

機器側出力信号	CH 1、2	-	-	-
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1~12
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1~12 Rec Out)
機器側入力信号	CH 1、2	-	-	-

iPad/iPhone (URX22)

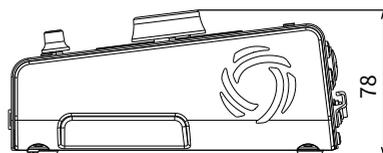
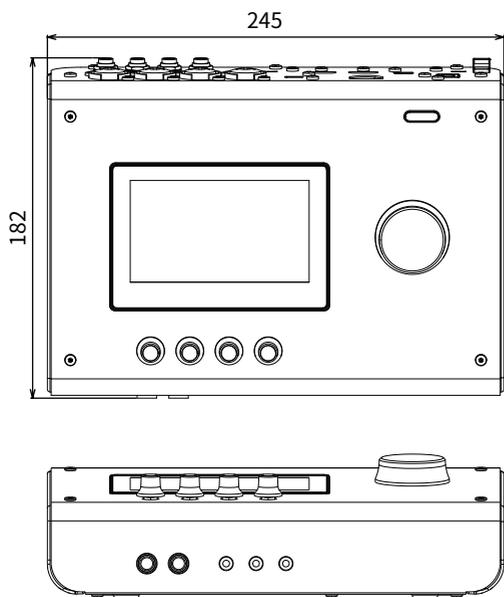
Generic Driver Audio Channel Suppression = Noneの場合

機器側出力信号	-	-	-	CH 1~10
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1~10
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1~10 Rec Out)
機器側入力信号	CH 11、12	-	-	CH 1~10

Generic Driver Audio Channel Suppression = 2 Channelsの場合

機器側出力信号	CH 1、2	-	-	-
本体側入力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	USB DAW 1~10
本体側出力信号名	USB MAIN A	USB MAIN B	USB MAIN C	(CH 1~10 Rec Out)
機器側入力信号	CH 1、2	-	-	-

寸法図



単位: mm

イラストはURX44Vを使用しています。

ブロックダイアグラム

URXシリーズのブロックダイアグラムは下記のヤマハウェブサイトをご覧ください。

<https://www.yamaha.com/2/urx/>

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<https://download.yamaha.com/>

© 2025 Yamaha Corporation

2026年3月 発行 AM-B0